

(ハ) 歴史の蹂躪 舊幕時代より江戸新川は酒問屋を以て天下に知られ、明治、大正の今日も尙東京に於ける酒類の集散地として商業殷盛を極む、然るに原案實行の曉は該地域を切斷し而も其の六分の一を失ふに至る、之れ當業者の苦痛として忍びざる所なり。

(ニ) 倉庫地の壓迫 當區は隅田川口及海岸に面し倉庫地帯として天分の好適地なるに、原案による新線開通を見むか、此の天與の倉庫地帯は著しく減縮せらるゝに至る。

(ホ) 區劃整理の變態 由來區劃整理の主眼は、從來の土地區劃を整然たらしめ、其の利用を充分ならしむるにあり、然るに新設幹線により三角形の地形約十五餘を生ずるに至る。

原案は以上多くの不利あるに對し、其の利益僅に高橋永代橋に於て僅かに四十五間の距離を短縮するのみ、電車運轉上の不便の如きは大曲線を作れば足る、然るに原案に於て橋梁に接近して大道路二線を合するが如きは、有事の際雜踏を來し危険の虞あり。

右陳情に對し、當局に於ては復興局と協議の上、大正十四年五月六日直木復興局長官より次の計畫方針を説明し、既定計畫變更を認め難き旨本地區整理委員會議長に回答し、其の他の變更陳情については換地設計に於て考慮し支障なからしむる事とし漸く解決せり。

「東京驛改築の結果榎町線二十四間道路に面し、驛東側に新に出入口設置せらるゝ曉に於ては、新永代橋により連絡せらるゝ深川方面と東京驛方面との交通は勿論、主として京橋及芝方面と深川方面との交通連絡上、現計畫の如く第十七號幹線を永代橋袂より直ちに第三號幹線と分離せしむるを得策と認む、又橋詰に於て二大路線合一するの非難あるも、橋詰に於て大道路を橋梁と直角に交叉せしむるに於ては交通上障害多きも、本計畫の如く橋梁の方向と僅の偏位を以て二路線を合せしむるは殆ど支障なきのみならず、却つて第十七號幹線と第三號幹線との交通重複を避くる點に於て有利なるを認む、尙本年三月三十日内務省告示第五十六號を以て地下鐵道第五號(池袋、洲崎線)も既定第十七號幹線に依る事となれるを

以て、右路線を變更するの餘地なしと認む」

## 第二 補助線街路

第二號線は地區の西北部龜島橋東詰に於て、第七號幹線より分岐し、一之橋を経て湊橋に通ずる幅員十八米の街路にして在來街路の北側に擴張し、第二十六號線は新高橋東詰幹線第十七號街路より分岐し龜島川に沿ひ隅田川口に達する幅員十八米の街路にして在來街路の東側に擴張し、第二十七號線は補助



ならず、却つて第十七號幹線と第三號幹線との交通重複を避くる點に於て有利なるを認む、尙本年三月三十日内務省告示第五十六號を以て地下鐵道第五號(池袋)洲崎線も既定第十七號幹線に依る事となれるを

以て、右路線を變更するの餘地なしと認む」

## 第二 補助線街路

第二號線は地區の西北部龜島橋東詰に於て、第七號幹線より分岐し、一之橋を経て湊橋に通ずる幅員十八米の街路にして在來街路の北側に擴張し、第二十六號線は新高橋東詰幹線第十七號街路より分岐し龜島川に沿ひ隅田川口に達する幅員十八米の街路にして在來街路の東側に擴張し、第二十七號線は補助線第二號の中部より分岐し、北新龜島橋に通ずる幅員十五米の街路にして在來街路の兩側に擴張し、第五十五號線は補助線第二號中第二十七號と反對側に於て分岐南走し、幹線第十七號に會する幅員十一米の街路にして北半部は在來街路の兩側に擴張し南半部は新設なり。

## 第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幅員四米、六米、八米、十一米及十五米にして、土地の狀況に應じ且つ幹線、補助線の連絡に考慮を拂ひ、新設、擴張又は改修せり。

## 第四 運河

日本橋川は國施行の改修運河にして、幅員を擴張して四十七米とし、河底を浚渫して深度一米八とす其の幅員は全部宅地に於て擴張し、切り取りたる面積五十一坪一合三勺なり。

## 第五 小公園

新設の越前堀公園は京橋區越前堀一丁目及銀町一丁目の兩町に跨り、西は補助線第五十五號を隔て、東京市越前堀尋常小學校に相對し、東及南は四米、北は九米の區劃整理街路に接し、面積九百二十五坪七合二勺なり。

以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。



整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	長面	積	備考
幹線	計 七 七 三	一三〇 一三〇 三三〇 <sup>米</sup>	一、四八・六 二六八・三 五八三・八七 <sup>米</sup>	二、四五一・三六 三、八七・一五 五、八六・四四 <sup>坪</sup>		
補助線	計 五 七 六 二	一八〇 一八〇 一五〇 一一〇	四五一・四 三六六・九 三三・六 二七・四五	二、三九・三五 一、八七・六 一五・一九 九六・五二		
區劃整理線	計	一五〇 一一〇 八〇 六〇 四〇	三三・五 一一〇・四〇 二、一八・七六 一、一四・九四 一、五六一・一〇	一、六九・五三 四、六三・二〇 五、三五・〇二 二、〇七・二六 一、八八・九四	舊道存置	
合計	計	一	八、九六・七五	三、九〇〇・四五		

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年三月二十三日土地區劃整理委員會に附議し、同年七月二十三日より十二月二十三日迄三回に修正決議せしむ、其の後數回に亘り一部換地位置變更案を提出し、其の都度決議し、大正十五年九月十一日議了せり、換地面積決定に關する件は大正十四年七月二十三日其の一



合計	計	八、九六・七五	一五、〇三・五五
		三、九〇〇・一五	

## 第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年三月二十三日土地區劃整理委員會に附議し、同年七月二十三日より十二月二十三日迄三回に修正決議せしも、其の後數回に亘り一部換地位置變更案を提出し、其の都度決議し、大正十五年九月十一日議了せり、換地面積決定に關する件は大正十四年七月二十三日其の一部を委員會に提案し、即日原案可決し、大正十五年二月二十日殘全部を提案し、大正十五年四月二十三日より同年十一月十三日迄五回に修正決議したるも、其の後數回に亘り一部面積變更案を提出し、其の都度決議し、昭和二年二月一日議了せり。

換地設計に因る宅地面積六萬四千五百四合九勺、公共用地面積四萬三千八百五十九坪二合七勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地五割九分四厘公共用地四割六厘なり、宅地の内借地面積は三萬五千三百三十七坪九合七勺にして、其の宅地面積に對する割合は五割四分八厘なり而して宅地が公共用地となりたる面積一萬四千六百二十四坪七合九勺、公共用地が宅地となりたる面積四千九百二十五坪五合八勺、差引潰地面積九千六百九十九坪二合一勺にして減歩率一割三分一厘四一七二なり。

尙換地設計の一部變更に當り京橋區銀町二丁目十四番地先河敷一部を埋立て、之に伴ひ不用に歸したる回漕橋撤去を爲したり、其の經過左の如し。

新川の隅田川合流個所の下流にある溝渠は靈巖島小學校敷地脇に發し、銀町二丁目の北部を東に流れ回漕橋に於て隅田川に注ぐ入堀にして、當初の設計は上流の大半は埋立て、下半は三菱倉庫株式會社所有堀敷明治二十七年十一月河敷拂下を含むに沿ひて同會社所有地越前堀二丁目四、六、七番及銀町二丁目十四番に分割して溝渠のまゝ宅地として換地を行ひ、回漕橋附近約七十六坪分を公共溝渠とするの換地面



第十九地區 甲 整地

一三四

積決定案を土地區劃整理委員會に提案したるに、銀町二丁目分は大正十五年三月二十日、越前堀二丁目分は同年六月七日各々原案通り決定したり、其の後昭和二年一月二十二日三菱倉庫株式会社より倉庫建築設計の必要上、既定計畫たる回漕橋附近溝渠をも換地として交付せられ度、其上は埋立費は勿論護岸工事費其他の費用を一切當方に於て償辨の上埋立を行ひ、自然不用に歸すべき回漕橋も撤去許可方の陳情あり、據りて調査するに回漕橋附近の溝渠は之れを存置するの必要を認めざるを以て、陳情の趣旨を許容することに決し、埋立地中道路敷に供用する外は換地として交付するの變更案を昭和二年二月一日土地區劃整理委員會に附議し即日原案の通可決せり、然るに設計當時之れを溝渠として取扱ひたるに地目は河敷なるを發見し耕地整理法第四十三條該當地として地區編入方の手續をなすの必要を認め、昭和二年七月二十日東京府知事に右土地の編入承認方を申請し同月二十九日承認を得たり。

整理前後土地面積調

區分	總面積	区内		公共用面積	公共用地の面積割合	潰地面積	潰地整理面積の割合	潰地面積より整理したる面積の補償
		宅地面積	借地面積					
整理前	七三、八〇四・七〇 <sup>坪</sup>	三九、七八・二一	〇・六八四	三四、一六〇・〇六 <sup>坪</sup>	〇・三六	九、六九・二二 <sup>坪</sup>	〇・一三四・七二	二、三三八・七四 <sup>坪</sup>
整理後	一〇七、九六四・七六 <sup>坪</sup>	六四、一〇五・四九	〇・五九四	四五、八五九・二七	〇・四六			

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

區分	民有地	國有地	公有地	計
整理前	六五、〇六・六九 <sup>坪</sup>	一、五〇・八五 <sup>坪</sup>	七、一〇七・一六 <sup>坪</sup>	七三、八〇四・七〇 <sup>坪</sup>
整理後	五、九五九・四二 <sup>坪</sup>	三、三四・〇六 <sup>坪</sup>	六、七八二・〇一 <sup>坪</sup>	一五、一七五・四九 <sup>坪</sup>



備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

整理後	整理前	區分	民有地	國有地	公有地	計
			三、一七・七	〇・五四八	四、八五・七	〇・四六

宅地面積内譯

整理後	整理前	區分	民有地	國有地	公有地	計
五、九五・四	六五、〇六・九		一、五〇・八五	三、四〇・六	七、一〇・一六	七三、八四・七
					六、七二・〇一	四〇、一五・四

整理前公共用地面積内譯

國有	公有	民有	小計	河川	公園	共同物	堤塘	溝渠	合計
一六、九三・四	三、八八・〇八	一、六五・九	三、五七・四	九、七〇・元	—	二、五六・三	—	一、六五・九	四、一〇・〇六

整理後公共用地面積内譯

幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川	公園	共同物	堤塘	溝渠	合計
二、四一・三	五、三五・八四	一五、〇六・九五 内私道 三九・七	三、九〇・一五	九、七〇・二九	—	二、五七・三	—	一、八八・八	四、八五・二七

第十九地區 甲 整地



第十九地區 客整地

宅地が公共用地となりたる面積

二三六

街		路		河川運河	公園	共同物	堤塘	溝渠	合計
幹線	補助線	區劃線	小計			揚場			
四、七五・五 <sup>坪</sup>	二、一〇五・八 <sup>坪</sup>	六、六元・七 <sup>坪</sup>	三、五二・三 <sup>坪</sup>	五・三 <sup>坪</sup>	九五・七 <sup>坪</sup>	二六・八 <sup>坪</sup>	—	—	一四、六四・九 <sup>坪</sup>

公共用地が宅地となりたる面積

街		路		河川運河	公園	共同物	堤塘	溝渠	合計
國有	公有	民有	小計			揚場			
二、九四・七 <sup>坪</sup>	三、七・五 <sup>坪</sup>	七五・九 <sup>坪</sup>	四、一四・四 <sup>坪</sup>	—	—	—	—	七七・二 <sup>坪</sup>	四、九三・五 <sup>坪</sup>

備考 各公共用地の整理前面積に「宅地が公共用地となりたる面積」を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積」を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

換地設計上地區を整理前五十七ブロック、整理後七十四ブロックに分ち整理せしも、對照の便宜上七分區と爲せり、其の區域及分區別整理前後宅地潰地面積を表示すれば左の如し。

分區	面積	整理前	整理後
一	...	...	...
二	...	...	...
三	...	...	...
四	...	...	...
五	...	...	...
六	...	...	...
七	...	...	...
八	...	...	...
九	...	...	...
十	...	...	...
十一	...	...	...
十二	...	...	...
十三	...	...	...
十四	...	...	...
十五	...	...	...
十六	...	...	...
十七	...	...	...
十八	...	...	...
十九	...	...	...
二十	...	...	...
二十一	...	...	...
二十二	...	...	...
二十三	...	...	...
二十四	...	...	...
二十五	...	...	...
二十六	...	...	...
二十七	...	...	...
二十八	...	...	...
二十九	...	...	...
三十	...	...	...
三十一	...	...	...
三十二	...	...	...
三十三	...	...	...
三十四	...	...	...
三十五	...	...	...
三十六	...	...	...
三十七	...	...	...
三十八	...	...	...
三十九	...	...	...
四十	...	...	...
四十一	...	...	...
四十二	...	...	...
四十三	...	...	...
四十四	...	...	...
四十五	...	...	...
四十六	...	...	...
四十七	...	...	...
四十八	...	...	...
四十九	...	...	...
五十	...	...	...

分區別區域調

分區	面積	整理前	整理後
一	...	...	...
二	...	...	...
三	...	...	...
四	...	...	...
五	...	...	...
六	...	...	...
七	...	...	...
八	...	...	...
九	...	...	...
十	...	...	...
十一	...	...	...
十二	...	...	...
十三	...	...	...
十四	...	...	...
十五	...	...	...
十六	...	...	...
十七	...	...	...
十八	...	...	...
十九	...	...	...
二十	...	...	...
二十一	...	...	...
二十二	...	...	...
二十三	...	...	...
二十四	...	...	...
二十五	...	...	...
二十六	...	...	...
二十七	...	...	...
二十八	...	...	...
二十九	...	...	...
三十	...	...	...
三十一	...	...	...
三十二	...	...	...
三十三	...	...	...
三十四	...	...	...
三十五	...	...	...
三十六	...	...	...
三十七	...	...	...
三十八	...	...	...
三十九	...	...	...
四十	...	...	...
四十一	...	...	...
四十二	...	...	...
四十三	...	...	...
四十四	...	...	...
四十五	...	...	...
四十六	...	...	...
四十七	...	...	...
四十八	...	...	...
四十九	...	...	...
五十	...	...	...



分區別區域調

番分 號區	區	域
一	南新堀町二丁目、大川端町、鹽町、稻荷河岸、南新堀河岸、四日市町の一部	
二	南新堀町一丁目、濱町、富島町、四日市町の一部	
三	靈岸島町、銀町一丁目の一部、長崎町一丁目の一部、長崎町二丁目の一部	
四	川口町、長崎町一丁目の一部、長崎町二丁目の一部、東湊町一丁目の一部	
五	銀町一丁目の一部、越前堀一丁目の一部、東湊町一丁目の一部、東湊町二丁目の一部	
六	新船松町、東湊町一丁目の一部、東湊町二丁目の一部	
七	越前堀二丁目、銀町二丁目、越前堀一丁目の一部	

第十九地區 甲 整地



第十九地區

甲 整地

分區別整理前後宅地潰地面積調

分區番號	整理前面積	整理後面積	潰地面積	減步率
一	八、〇九三・三 <sub>坪</sub>	六、八一九・四 <sub>坪</sub>	一、二七三・七 <sub>坪</sub>	〇・二五
二	九、四八一・六〇	八、三五六・二五	一、一三五・四五	〇・二九
三	六、二五三・三三	五、五六二・九八	六九〇・二四	〇・二〇
四	八、七〇四・三三	七、一三五・二九	一、五六八・八四	〇・二八
五	七、二七三・六九	五、九〇六・九二	一、三六六・七七	〇・二八
六	八、五五六・一七	七、四四二・八〇	一、一一三・三七	〇・二三
七	二五、四四二・六六	二三、八八一・八八	二、五六〇・七八	〇・二二
計	七、八四・七〇	六、一〇五・四九	九、六九九・三二	〇・三三

斯の如く分區間の減步率區々にして最高は第五號分區の一割八分八厘、最低は第七號分區の一割二厘、地區平均減步率一割三分一厘なるを以て、減步調節の爲潰地充當用として宅地千三百八十九坪四合二勺を買収し、(第五章第一節潰地充當用買収地面積と差異あるは買収に際し實測面積に據りたるが故なり)且分區間に宅地二千七百三十四坪三合七勺の移出入を行ひたり、分區間の移出入關係を表示すれば左の如し。

分區間移出入面積調

移出分區	移入分區
一	一
坪	坪
二	二
坪	坪
三	三
坪	坪
四	四
坪	坪
五	五
坪	坪
六	六
坪	坪
七	七
坪	坪
計	計
坪	坪



分區間移出入面積調

移出分區	移入分區						
	一	二	三	四	五	六	七
計					一、四六・三		一、五七・四
一							
二							
三							
四							
五					一、四六・三		
六							
七						一、二八・七	二、〇三・四
計					一、四六・三	一、二八・七	二、〇三・四

以上述べたる如く潰地充當用地を買収し、且分區間に移出入を爲したる結果各分區の減歩率に變更を來し、其の最高は第四號分區の一割二分六厘、其の最低は第六號分區の一割一厘となれり、而して本地區に於ける實際潰地面積は八千三百九坪七合九勺に減少し、其の減歩率一割一分五厘に低下せり、左に分區別買収面積、移出入面積、實際潰地面積及減歩率を表示すべし。



第十九地區 甲 整地

分區別買收移出實際潰地面積調

二四〇

分區 番號	整理前 面積	買收面積	移出面積	移入面積	差引面積	整理後 面積	實際潰 地面積	減步 率
一	八、〇九三・三 <sup>坪</sup>	三三二・五四 <sup>坪</sup>			七、七〇六・九 <sup>坪</sup>	六、八一九・四七 <sup>坪</sup>	九五・三三 <sup>坪</sup>	〇・二三
二	九、四八一・六〇				九、四八一・六〇	八、三五六・二五	一、二五・四五	〇・二九
三	六、二五三・三三				六、二五三・三三	五、五二二・九八	六九〇・三四	〇・二〇
四	八、七〇四・一三	三三八・八五	一〇三・四九		八、二六二・九	七、二五二・九	一、〇一〇・五〇	〇・二六
五	七、二七三・六九	六一・六二	一、二八・七七	一、一四六・六三	六、五九九・九三	五、九〇六・九二	六八三・〇一	〇・二四
六	八、五五六・一七	一六・四二	一、四六・六三		八、二七四・二八	七、四四二・八〇	八三一・四八	〇・二〇
七	二五、四三二・六六		一、一四六・六三	一、五八七・七四	二五、八八三・七七	二三、八八一・八八	三、〇〇一・八九	〇・二六
計	七三、八〇四・七〇	一、三九九・三三	二、七四三・七七	二、七四三・七七	七三、四一五・三八	六八、〇五二・四九	八、三〇九・七九	〇・二五

第四章 土地の評價

第一節 整理前土地の評價

整理前各段買收成立土地各筆平均平常指數を關する件は大正十四年九月二十八日土地區劃整理委員會



## 第四章 土地の評價

### 第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年九月二十八日土地區劃整理委員會に諮問し、路線價指數に付ては同年十二月二十三日、平均坪當指數に付ては昭和二年二月一日各修正決議せり、其の後昭和三年四月二十七日整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する一部變更案を提出し同年五月二十六日原案可決せり。

本地區整理前の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中、甲、乙及丙の三率を適用したり、即ち其の三率適用の路線を擧ぐれば左の如し。

#### 第一 甲率適用路線

- 一 永代橋より靈岸橋に至る電車通(但本路線中、南新堀一丁目一番地先丙率適用箇所を除く)
- 二 前記路線より分岐し新川橋を経て新高橋に至る電車通

#### 第二 乙率適用路線

甲率及丙率適用以外の路線

#### 第三 丙率適用路線

- 一 南新堀一丁目一番地先路線
- 二 越前堀二丁目三番地先隅田川沿路線より分岐し越前堀一丁目十番ノ三地先に至る路線
- 三 越前堀二丁目二番ノ二地先榮橋内の水面



四 龜島橋下流龜島川より引續き隅田川の一部

路線價指數は土地の状況に依り四百二十五個乃至千個と評定せり、即ち靈岸橋より富島町迄の電車通りを最高千個、越前堀一丁目内の私道を最低四百二十五個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千百三十個、富島町一番ノ一にして、最低は三百十九個、越前堀二丁目六番ノ三なり。

宅地全筆の總指數は、土地總指數三千七百四十八萬七千三百二十一個より私道指數一萬六千八百十個を控除したる三千七百四十七萬五百一十一個にして、之を宅地總面積の七萬三千八百四坪七合にて除したる平均坪當指數は五百八個なり。

借地權利價割合は市有河岸地を五割五分、一般宅地を三割三分と定めたり。

第二節 整理後土地の評價

整理後路線價指數に關する件は大正十五年二月二十日土地區劃整理委員會に諮問し、昭和三年六月一日修正決議し、整理後各筆平均坪當指數に關する件は單獨に之を諮問せず土地各筆清算案の内容を爲すものとして、昭和三年五月一日同案を委員會に附議し、同年六月一日修正決議せり。

整理後の土地評價は整理前と同じく甲、乙及丙の三率を適用したり、即ち其の三率適用の路線を擧ぐれば左の如し。

第一 甲率適用路線

- 一 幹線第三號(但本幹線中丙率適用の個所を除く)
- 二 幹線第十七號中越前堀一丁目十番ノ二地先より新高橋に至る在來街路を擴張したる間の路線

三 幹線第三號より分岐する舊電車通幹線第十七號に至る間の路線

第二 乙率適用路線

甲、丙率適用以外の路線

第三 丙率適用路線



- 一 幹線第三號(但本幹線中丙率適用の箇所を除く)
- 二 幹線第十七號中越前堀一丁目十番ノ二地先より新高橋に至る在來街路を擴張したる間の路線

三 幹線第三號より分岐する舊電車通幹線第十七號に至る間の路線

## 第二 乙率適用路線

甲、丙率適用以外の路線

## 第三 丙率適用路線

- 一 幹線第三號中南新堀一丁目一番地先路線
- 二 越前堀二丁目一番ノ二地先榮橋下の水面
- 三 越前堀二丁目内を幹線第十七號より分岐し隅田川に至る路線
- 四 靈岸橋下流龜島川より引續き隅田川の一部

路線價指數は土地の整理狀況に依り四百三十個乃至千百十個と評定せり、即ち幹線第三號靈岸橋より富島町迄の整理前千個の箇所を最高千百十個とし越前堀一丁目内四米の區劃整理街路を最低四百三十個としたり、路線價指數に基き算出せる各筆平均坪當指數の最高は千二百七十九個、東湊町一丁目七番ノ三にして、最低は三百六十九個、越前堀一丁目二十六番ノ四なり。

換地全筆の總指數は三千八百八萬六百十八個にして、之を換地總面積の六萬四千五百五坪四合九勺にて除したる平均坪當指數は五百九十三個なり。

借地權利價割合は整理前と同じく市有河岸地を五割五分、其の他を三割三分と定めたり。以上記述せる整理前後に於ける最高最低の路線價指數、坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。



整理前後路線價各筆坪當及宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	最高 1,000個	六五〇・〇〇 <sub>円</sub>	最高 1,200個	七二二・五〇 <sub>円</sub>
	最低 四五	二七六・〇〇	最低 四〇	二七九・五〇
各筆坪當	最高 一、三〇	七四〇・〇〇	最高 一、二九	八三三・三五
	最低 三九	二〇七・三五	最低 三九	一三九・八五
宅地總平均坪當	五八	三〇〇・二〇	五三	三六五・四五

備考 指數單價は六十五錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權				
借地權				



又整理前後に於ける所有権、借地権の評定権利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有権借地権評定権利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有権	(内私道) 二八、七〇〇、六五 <sup>圓</sup> 外 一六、八二〇 六四八、二五二	一八、七〇〇、九六 <sup>円</sup> 一〇、九六・五〇 四二、三六三・一五	二九、七四〇、二八 <sup>圓</sup>	一九、三三一、一八 <sup>円</sup> 一八 <sup>円</sup> ・九五
借地権	八、〇六八、四一四	五、二四四、四九・一〇	八、三四〇、三五	五、四二二、二七・七五
合計	(内私道) 三六、八三九、〇七〇 外 一六、八二〇 六四八、二五二	二三、九四五、三三 <sup>五</sup> ・五〇 一〇、九六・五〇 四二、三六三・一五	三八、〇八〇、六八	二四、七三三、四〇一・七〇

備考 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。  
 二 整理前の總指數 (潰地充當用買收地の指數を包含するもの) は三七、四八七、三二一個なり。  
 三 整理前宅地總指數 (私道の指數を含まざるもの) は三七、四七〇、五一一個なり。



第十九地區 甲 整地

尙整理前後に於ける土地權利價割合を表示すれば左の如し。

整理前後土地權利價割合

區	域	土地權利價割合		計
		所有權	借地權	
一 市有河岸地		四五	五五	一〇〇
一 其他		六七	三三	一〇〇

市有河岸地	其他	所有權	借地權	計
四五	六七	五五	三三	一〇〇

第五章 換地處分

第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和三年四月二十七日土地區劃整理委員會に附議し、同年六月一日修正決



## 第五章 換地處分

### 第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和三年四月二十七日土地區劃整理委員會に附議し、同年六月一日修正決議し、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和三年六月二十七日同委員會に附議し、同年七月二十六日原案の通可決したるを以て、翌二十七日内務大臣に土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、翌二十八日認可、同日内務省告示第九十三號を以て換地處分認可の告示あり、依て即日東京市告示第二百九十七號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領権利者は七月二十八日より同月三十日迄に東京市復興事業局第一出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前四百七十三筆、整理後四百四十七筆、借地整理前千二百三十件、整理後千二百二十四件なり、土地権利者は所有權者整理前百八十三人、整理後百七十五人、借地權者整理前後共九百六人なり。

土地各筆清算に際しては整理前要素清算土地評定權利指數三千六百八十三萬九千七十個を以て、換地の評定權利指數三千八百八萬六千八百十八個を除したる比率一・〇三三七〇一九を、整理前の各筆權利指數に乘じて整理前の比例權利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し。



第十九地區 甲 整地

一 清算を爲したるもの

換地 説明 書別	從前の土地		換地		地		計算上の清算		徴収		
	面積	積	面積	積	面積	積	比例権利指數	評定権利指數	徴収	交付	
甲	七〇,七七一・七三	五,六二・九三	六五,三七九・七八	五,〇八四・八一	三〇,二〇四・〇〇	三,一〇三・〇九	三九七,四七五・〇〇	三三三,八二八・三〇	五〇,五四三・三五	二六二,三九・八五	二四九,二六・五〇
乙	—	三四,〇六五・一八	—	三〇,〇五三・一六	七四,八六〇・五〇	六,九七五・五七	—	八七,九六三・八五	—	五五,五二・二五	七八,六五・六〇
計	七〇,七七一・七三	三九,〇九六・九一	六五,三七九・七八	三〇,〇五三・一六	三九七,四七五・〇〇	六,九七五・五七	三九七,四七五・〇〇	三三三,八二八・三〇	五〇,五四三・三五	二六二,三九・八五	二四九,二六・五〇

備考 一 換地説明書別欄甲は所有権と、所有権者にして借地権を有するもの、借地権との清算を、乙は借地権のみの清算を掲ぐ。

二 從前の所有地面積は臺帳面積に據り、借地面積は申告面積なり。

三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

二 特別處分を爲したるもの

一 換地を交付し清算を行はざりしもの

所有者	從前の土地		換地		摘要				
	區町丁目	地番	地目	面積	區町丁目	地番	地目	面積	







第十九地區 甲 整地

二五〇

東京市	新船橋區	二一	河岸地	四・六	新船橋區	二一ノ一	河岸地	三・六	共同物揚場
合計				四・六				四・三	

二 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	權利指數	價格	摘要
渡邊イネ	京橋區 越前堀二丁目	一ノ七	道路	所有權	二〇八・二〇	五、六四四個	三、六八・六〇	道路敷
鹿島千代	同	五ノ二	同	同	五〇・〇〇	一、九六四	一、二七・六〇	同
	同	四ノ八五	宅地	同	四・七七	三・六一	二、四・五	私道敷
	同	四ノ八六	同	同	八・〇〇	六・三	三、八・四	同
三菱合資會社	同	四ノ八七	同	同	二・八六	二・〇五	一、三・二五	同
	同	一〇ノ二	道路	同	二四・〇四	九、七六八	六、四九・二〇	道路敷
掛替伊助	計 東京橋區 東湊町二丁目	一〇ノ内 (3)		賃借權	二五・四九	一〇、四七	七、二五・五	
				所有權	三・五九	六・三	五、八・四	
合計				賃借權	五、六・五九	一八、五五	二、〇〇・七	
				所有權	三・五九	六・三	三、八・四	

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

所有者	區町丁目	地番	地目	面積	積	摘要
-----	------	----	----	----	---	----



三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

所有者	區町丁目	地番	地目	面積	摘要
帝國冷蔵株式會社	京橋區 越前堀二丁目	四ノ三	道路	二四・五 <sup>坪</sup>	道路敷
佐藤 金七	同 大川端町	四	同	二六・五 <sup>坪</sup>	
鹿島 のぶ	同	五	同	一九・六 <sup>坪</sup>	
近藤 佐七	同 濱町	一四	宅地	六〇・〇 <sup>坪</sup>	
小西 孝兵衛	同	一五	道路	七・八 <sup>坪</sup>	
福岡 福太郎	同	一六	宅地	九〇・四 <sup>坪</sup>	
小津 與右衛門	同 川口町	一一	道路	二三・四 <sup>坪</sup>	
竹内 しま	同 鹽町	一一ノ二	宅地	三三・六 <sup>坪</sup>	
鈴木 亮藏	同	一四	同	三三・五 <sup>坪</sup>	
伊阪 半九郎	同	一	同	七・三 <sup>坪</sup>	

第十九地區 甲 整地



第十九地區 甲 整地

濱口吉右衛門	同	四	同	充・五同
中井新右衛門	同	五	同	五・五同
小津與右衛門	同	六	道	一〇・七同
土志田與助	同	七	宅	三・五同
說田彦助	同	一・二ノ二	同	一四・四〇同
東湊町二丁目	同	外四ノ二筆	道	一六・八同
四日市町	同	外一筆〇	同	二五・六同
鹽	同	二四ノ二筆	同	一〇・七同
富島町	同	外一ノ二筆	同	七六・七同
南新堀一丁目	同	外二ノ二筆	同	七・六同
南新堀二丁目	同	一三ノ二	橋臺地	三・七橋臺敷
銀町二丁目	同	一ノ二	道	二六・三道路敷
濱町	同	一・二ノ二	同	二・四同

同	同	一三ノ二	同	三〇・五同
東湊町一丁目	同	外三筆	同	一・三・五・〇同
越前堀一丁目	同	外一ノ四筆	同	二・八・五・三
計				







合									
計									
計	同	同	同	同	同	同	同	同	同
			越前堀一丁目				川口町		
	五ノ三	七ノ二	六ノ一	二〇ノ三	一四ノ一	一四	一三ノ一	一三	一五
	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	一、四八・三	八七・〇	六・四	三〇・五	五〇・四	一五・七	二四・三	九・五	二九・五
	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	五、五八・七								
	合二勺								

此の實測面積千三百八十九坪四合二勺

三 所有權以外の權利の指定又は處分の制限を爲したるもの

- 一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權一件、地上權假登記二十五件、抵當權六十七件、抵當權假登記一件、賃借權九件、賃借權假登記二件あり。
- 二 處分制限の指定を爲したるもの工場財團一件、所有權假登記十八件あり。



三 所有權以外の権利の指定又は處分の制限を爲したるもの

- 一 既登記の所有權以外の権利の指定を爲したるもの地上權一件、地上權假登記二十五件、抵當權六十七件、抵當權假登記一件、賃借權九件、賃借權假登記二件あり。
  - 二 處分制限の指定を爲したるもの工場財團一件、所有權假登記十八件あり。
  - 三 未登記の所有權以外の権利の指定を爲したるもの賃借權千百九十三件あり。
- 備考 右の外係争中の賃借權二十三件、借地法第六條該當地十九件、同法第九條該當地十六件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徵收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和三年七月二十八日内務大臣の認可あり、而して清算金徵收額は金三十二萬七千八百八十二圓十錢にして人員五百九人なり、又土地補償金は同月三十一日補償審査會に於て金三十二萬三千三百六圓七十五錢人員千八十人と決定せられ、同年八月四日其の通知を受けたり、依て同月十日補償金を以て徵收清算金に充當處分を爲したりしが、同年十一月六日補償審査會に於て補償金の變更を爲したる旨同月七日通知を受けたるに因り、同月八日充當處分の變更を爲したり、充當計算左表の如し。



摘要	徵收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徵收金		充當後交付金	
	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員
當初充當面	三七、八二・二〇 <sup>円</sup>	五九	三三、三〇六・七五 <sup>円</sup>	一、〇八〇	一五、八九・〇〇 <sup>円</sup>	五〇六	三三、九四・一〇 <sup>円</sup>	二五四	二七、四八・七五 <sup>円</sup>	六九四
變更充當面	三七、八二・二〇	五九	三三、九四・二〇	一、〇〇〇	一〇四、五五・四五	五〇六	二三、三六・六五	二五四	二七、四八・七五	六九四
差引増△減	—	—	△二、三六二・五五	—	△二、三六二・五五	—	一、三六二・五五	—	—	—

第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は、豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、昭和三年八月十日充當處分を爲したる後直に之が送達に著手し、京橋區内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

人夫を使用して送達したるもの八百八十一通内送達を了したるもの七百五十五通、現住所不明の爲持歸りたるもの百二十六通なり、又書留郵便に附したるもの百九十九通、内送達済のもの百八十五通、現住所不明として返送せられたるもの十四通、其他官公署に對するもの四通にして結局送達を了したるもの計九百四十四通、送達不能なりしもの計百四十通なり。

前記の如く多數送達不能となりたるは、轉居に因る現住所の異動又は權利者の變更ありたるも其の申告を怠りしに因るものにして、是れ等に對して昭和三年八月十三日より地主又は管理人若は借家人等に就き種々苦心の結果現住所を調査し、同年十月九日迄に百三十八通を送達し、全く現住所不明なるもの二件は同四年二月二日日本市公報に掲載し公示送達を爲したり。

第三 清算金の徵收

本地區に於ける徵收清算金總額は金三十二萬七千八百八十二圓十錢なりしが、内金十萬四千五百十五圓四十五錢を對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徵收すべき清算金は、差引



二件は同四年二月二日日本市公報に掲載し公示送達を爲したり。

### 第三 清算金の徴収

本地區に於ける徴収清算金總額は金三十二萬七千八百八十二圓十錢なりしが、内金十萬四千五百十五圓四十五錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徴収すべき清算金は、差引金二十二萬三千三百六十六圓六十五錢にして、人員二百五十四人なり。

右徴収人員二百五十四人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの百三十七人なるも、内官公署分二件を除き差引百三十五人に對し、分納申請期限を昭和三年八月三十一日とし同月十日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの四十一人にして資格者總數に對し僅に三割に過ぎざりしを以て、同年九月一日未提出者九十四人に對し更に同月五日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に提出したるもの四十七人ありて、結局申請者合計八十八人となり、資格者總數に對し約六割一分となりたり。

依て右申請書を審査の上同年九月十一日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。



今分納清算金に付其の内譯を示せば左の如し。

回数區分	元	金	利	子	計	人員	納期限
一		九、六六・六〇		一	九、六六・六〇	八	昭和 三、九、三〇
二		七、七七・三		二、二九・六〇	一〇、〇六・九一	八	同 四、三、三
三		六、六九・六八		一、九七・三	八、五六・九八	七	同 九、三〇
四		六、一五・四二		一、三九・七六	七、七九・一八	五	同 五、三、三
五		五、三三・八五		一、三九・七四	六、六七・五九	五	同 九、三〇
六		五、二〇・七三		一、二八・五七	六、四六・三〇	四	同 六、三、三
七		五、一八・七九		九七〇・三四	六、一五・一三	四	同 九、三〇
八		四、七三・五九		七三三・二二	五、五六・七一	三	同 七、三、三
九		四、六二・〇七		五三二・二二	五、一四・二八	三	同 九、三〇
〇		四、七九・三		三六五・七一	五、一七・〇九	二	同 八、三、三
一		四、八五・一八		一九四・一六	五、〇五・三四	二	同 九、三〇
計		五、一〇六・九〇		二、二七・三三	五、三三・二三	三	同 九、三〇

本地區の清算金徴收事務は京橋區役所に於て取扱ふものにして、昭和三年九月より之が徴收を開始せり。

第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は金三十二萬七千八百八十二圓十錢にして、昭和三年八月二十九日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額三十二萬七千七百八十圓五錢なり。而して前記交付済額中京橋區役所に於て支拂を爲したるもの金三十一萬五千八百十四圓八十五錢、官



#### 第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は金三十二萬七千八百八十二圓十錢にして、昭和三年八月二十九日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額三十二萬七千七百八十圓五錢なり。

而して前記交付濟額中京橋區役所に於て支拂を爲したるもの金三十一萬五千八百十四圓八十五錢、官廳の納入告知書に依り市會計課に於て納付したるもの金一萬三百八十八圓九十五錢(内務省分)市會計規程に基き振替手續に依り支出したるもの金千六百八十八圓五錢(本市分)及抵當權者の支拂同意なき爲東京供託局へ供託を爲したるもの金四百八圓二十錢なり。



## 第六章 土地補償金

### 第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割三分一厘四一七二四なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買収したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前の權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり(第一章第二節及第五章第一節參照)

次で前記配當割合に基き左記第一表其の一に依り計算したる補償總指數を、整理前各權利に配當して原案を作成の上、昭和三年七月二十八日補償審査會に提出し、同月三十一日原案の通決定せられ、同年八月四日其旨通知を受けしが、其後補償金に誤謬ありしことを發見せしに依り、之が變更案を左記第二表の計算に基き作成の上、同年十一月五日補償審査會に提出し、同月六日原案の通決定せられ、同月七日其旨通知を受けたり。

而して要交付補償金總額は金三十二萬千九百二十四圓二十錢人員千八十人なり。

### 補償金計算調書

#### (第一表)

(其の一)

摘	要	員	數



補償金計算調書

(其の二)

(第一表)

補償金	補償額	整理前宅地坪當價	指當價	同上平均坪當指數	整理前宅地總指數	補償總面積	整理前宅地の一割に相當する面積	整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合	潰地面積	整理後宅地總面積	整理前宅地總面積	摘要	員數
七六五、六四八圓〇〇	一、一七七、九二〇個	三三〇圓二〇	〇圓六五	五〇八個	三七、四七〇、五一一個	二、三二八坪七四	七、三八〇坪四七	〇・一三二四一七二四	九、六九九坪二一	六四、一〇五坪四九	七三、八〇四坪七〇		

第十九地區 甲整地



摘要		員	數
特別都市計畫法施行令第二十九條 該當中指數相當額配當のもの	面積 整理前指數 補償指數 補償金額		一、三八九坪四二 六四八、二五一 六四八、二五一
差引整理前宅地總指數	總指數		四二一、三六三圓一五
差引補償總指數	總指數		三六、八二二、二六〇個
補償金配當率 (整理前指數千個當)			七〇四、七五一個
特別都市計畫法施行令第二十九條 該當中按分率に依り配當のもの	面積 整理前指數 補償指數 補償金額	所有權 借地權	一九個一三九二六五 七、一六三坪二八 五四二坪一八 二、三四三、六八二個 三一、二七四個 一〇、九七八圓一〇 三三三、三〇六圓七五
差引要交付補償金額			

備考

- 一 指數單價六十五錢は、昭和三年六月十九日補償審査會に於て決定せるものなり。
- 二 特別都市計畫法施行令第二十九條該當地の面積は、土地臺帳又は官廳の臺帳面積を掲上せり。
- 三 補償金配當率は、前表差引整理前宅地總指數(三六、八二二、二六〇個)を以て差引補償總

- 四 指數(七〇四、七五一個)を除したるものなり。
- 四 各筆の補償金(各所有權及借地權に對する補償金)は、前號の配當率に依り補償指數を求め之に指數單價を乘じて算出せるものなり。



二 特別都市計畫法施行令第二十九條該當地の面積は、土地臺帳又は官廳の臺帳面積を掲上せり。

三 補償金配當率は、前表差引整理前宅地總指數(三六、八二二、二六〇個)を以て差引補償總

指數(七〇、四七五、一一個)を除したるものなり。  
 四 各筆の補償金(各所有權及借地權に對する補償金)は、前號の配當率に依り補償指數を求め之に指數單價を乘じて算出せるものなり。

補償金計算調書

(第二表)

摘	要	變	更	前	變	更	後	差
引	要	變	更	前	變	更	後	引
要	交	付	補	償	金	額	額	額
特別都市計畫法施行令第二十九條該當中按分率に依り配當のもの	面積	七、七五坪四六	八、〇〇五坪四六	二、二四三、六二個	二、三九一、五〇個	一四七、八八個	三〇〇坪〇〇	
整理前指數	補償指數	三三、二七個	三三、四〇個	二〇、九七八圓二〇	三三、三〇圓五五	一、三六二圓五五		△
補償金額	補償金額	三三、三〇六圓七五	三三、三九四圓二〇			一、三六二圓五五		△
差引要交付補償金								一、三六二圓五五



第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は、左記調査表の如く國負擔額金二萬五千七百七十八圓四十錢市負擔額金二十九萬六千七百四十五圓八十錢となりしが、他地區に於て宅地潰地充當用として國の買收超過額を以て市負擔たるべき補償金に充當し立替を受けたるものあるに依り、本地區に於て前記國負擔額を市に於て全部負擔することとなりたる爲、市負擔額は金三十二萬九千九百二十四圓二十錢(人員千八十人)となれり。

國市負擔區分調査表

(其の一)

補償	面積		國負擔	面積		市負擔	面積		備考
	金額	指數		金額	指數		金額	指數	
補償	二、三八・七四	坪	國負擔	一、三三・〇二	坪	市負擔	九五・七二	坪	備考
	七五、六四八・〇〇	圓		七〇七、六四四	圓		三〇五、六七・九〇	圓	
補償	一、二七、九〇	個	國負擔	四七〇、一六六	個	市負擔	七三、八〇四・七〇	坪	備考
	三、三〇、八一	個		三七、四七〇、五一	個		五〇八	個	
補償	三、〇九、八二	個	國負擔	整理前面積	平均坪	市負擔	當指數	國又は公有	備考
	三、〇九、八二	個		地指數	地指數		地指數	地指數	

(其の二)

負擔區分	種別	補償		施行令第二十九條該當地	控除の分		計	差引交付	
		面積	金額		金額	指數		金額	指數
負擔區分	種別	面積	金額	依るもの	金額	指數	計	金額	指數
		金額	指數	依るもの	金額	指數	計	金額	指數



(其の二)

負擔	區分	種別	面積		補償		施行令第二十九條該當地				差引交付	
			金	指	金額	指數	控除の分	計	金額	指數	金額	指數
國負擔	計	幹線	一、三九三・〇二	七〇七、六五四 <small>圓</small>	二〇、六六七 <small>圓</small>	一三、四三三・五五 <small>圓</small>	四二、三六三・一五 <small>圓</small>	六八八、二五一 <small>圓</small>	四四、七九六・七〇 <small>圓</small>	六八、九一八 <small>圓</small>	二五、一七八・四〇 <small>圓</small>	三八、七三六
市負擔	計	小公園	九五・七二	四七〇、二六六	八、九七・一〇	一三、七三四	一三、七三四	一三、七三四	八、九七・一〇	一三、七三四	二九六、七四五・八〇	四五六、五三三
合	計		二、三三八・七四	七六五、九二〇 <small>圓</small>	三三、三〇四・六一 <small>圓</small>	二六、八六七・一〇 <small>圓</small>	八四、七二六・三〇 <small>圓</small>	一、四七六、一七六 <small>圓</small>	五三、七九三・八〇 <small>圓</small>	一三六、八三六 <small>圓</small>	五〇、九一四・八〇 <small>圓</small>	六六、四七二

第十九地區 甲 整地



### 第三 補償金の申告

補償金の交付を受けむとする者は、昭和三年七月三十日迄に之に關する申告書を提出すべき旨申告書用紙を添へ権利者千八十人に對し注意書を發したるに、右期限内に出張所に提出したるもの千七十五人なりしが、未提出者五人に對しては本局に於て之を提出せしめたり。

### 第四 各権利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は金三十二萬千九百二十四圓二十錢なりしが、内金十萬四千五百十五圓四十五錢を徵收清算金に充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は、金二十一萬七千四百八圓七十五錢（人員六百九十四人）なり。

### 第五 補償金の交付

本地區に於ける補償金總額三十二萬千九百二十四圓二十錢の内、徵收清算金に充當したる金額十萬四千五百十五圓四十五錢は、市會計規程に基き振替手續に依り昭和三年十二月八日支出し、直接交付すべき補償金二十一萬七千四百八圓七十五錢は、昭和三年八月三十日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額二十一萬七千二百二十八圓六十錢にして、交付濟合計金額三十二萬千六百四十四圓五錢なり。

而して前記直接交付したる金額中京橋區役所に於て支拂を爲したるもの金二十一萬五千四十四圓七十錢にして、抵當權者の支拂同意なき爲東京供託局へ供託を爲したるもの金二千八十三圓九十錢なり。

## 第七章 登記及地價配賦

### 第一節 登記



## 第七章 登記及地價配賦

### 第一節 登記

#### 第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は、土地表示更正變更四十六件、土地名義人表示更正變更五件、土地分合筆百三十四件、家督相續十六件なり。

#### 第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前四百三十八筆、整理後三百九十一筆にして、建物囑託件數は要登記のもの三百九十五件、現存を認め難きもの千八百五十三件なり、囑託書を東京區裁判所に提出したるは昭和三年十月九日にして、登記の完了は昭和三年十二月一日なり、而して登記の停止期間は換地處分告示の日、即昭和三年七月二十八日より約四ヶ月に亘れり。

### 第二節 地價配賦

#### 第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を京橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

一 土地區劃整理施行申告	昭和二年一月九日
一 工事著手届	同 日
一 工事完了届	同 三年七月二十九日

第十九地區 甲 整地



第二 地價配賦

地價配賦案は昭和二年八月二十日之が作成を了し、同年九月十三日京橋稅務署長に提出し、同十二月十二日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は百十二萬九千十六圓五十三錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は十三萬六千三百十三圓四十七錢なり、之を前述の地價總額百十二萬九千十六圓五十三錢より控除したる五十九萬二千七百三圓六錢は、即ち整理後有租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は二九圓六六五四九八となる。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	六四、九〇七・三五 <sup>坪</sup>	整理後面積	五七、〇〇〇・五四 <sup>坪</sup>	差引減歩面積	七、八六六・八一 <sup>坪</sup>
-------	------------------------	-------	------------------------	--------	-----------------------

二 整理前有租地坪當平均地價

整理前有租地面積	六四、九〇七・三五 <sup>坪</sup>	同上總地價	一、二九、〇一六・五三 <sup>円</sup>	坪當平均地價	一七・三九四 <sup>円</sup>
----------	------------------------	-------	--------------------------	--------	---------------------

三 控除せらるべき地價

有租地差引減歩面積	七、八六六・八一 <sup>坪</sup>	坪當平均地價	一七・三九四 <sup>円</sup>	控除地價	一三六、三三・四七 <sup>円</sup>
-----------	-----------------------	--------	---------------------	------	------------------------



三 控除せらるべき地價

有租地差引減歩面積	坪當平均地價	控除地價
七、八六・八一 <sup>坪</sup>	一七・三九四 <sup>円</sup>	一三六、三三・四七 <sup>円</sup>

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租地總指數	配賦地價額	指數千個當配賦地價額
三三、四六三・二八 <sup>個</sup>	九二、七〇三・〇六 <sup>円</sup>	二元、六六五・四九八 <sup>円</sup>

次に整理前後の土地を有租地、免租地、公共用地の區分に従ひ、地目別に掲上すれば左の如し。  
整理前後土地面積及筆數調

區分地目	從前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引	
	臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	増	減	増	減
區有免租地	九五三・四〇	二	一、〇四二・天	一	八九・二	—	—	—
民有免租地	二、五〇一・三三	二元	三九九・七一	五	—	二、一〇一・五二	—	二四
有租地	六三、四九二・二三 <sup>坪</sup>	三七一	五、〇〇七・五 <sup>坪</sup>	三九六	—	六、四〇〇・六 <sup>坪</sup>	二五	—
區分地目								
住宅地								
道								
公立學校								



合 計	市有免租地				國有免租地				公共用地				
	道 路	橋 臺 地	水 道 用 地	河 岸 地	計	河 岸 地	內 務 省 用 地	大 藏 省 用 地	計	道 路	河 川 運 河	溝 渠	公 園 地
一〇六、四九三・〇六	二、八六・高	三、九七	四、九八・二	八、九七・三	一〇九・七	一、四八・七	三〇〇・〇〇	一、八二六・〇九	一七、三九七・四八	九、七〇〇・二九	一、六七五・九五		
四七	一	一	一	三	一	九	一	二					
一〇七、九四三・七六			四、九八・二	六、〇二一・〇八	六、〇二一・〇八		三〇〇・〇〇	三、四〇・〇六	三、五〇〇・四四	九、七五一・四二	八、九八・八一	九、五・七二	四、〇七六・三九
四七			一	四	一		一	一					
一五、二六六・九二									一、四、〇二・九六	五、一・三三		九、五・七二	一五、〇七三・八一
一三、六九七・三三	二、八六・高	三、九七	一、九六	二、九三・八五	四三・六	一、四八・七	一、四三・〇三				七、七・二四		七、七・二四
四				元									
八	一			三				九					

乙 建物其の他の工作物移轉



## 乙 建物其の他の工作物移轉

### 第一章 整理前の建物

#### 第一節 建物状況

本地區整理前の宅地總面積は七萬三千八百四坪七合にして、之に所在する建物の總棟數は二千四百五十三棟、此の延坪數五萬千二百九十六坪一合六勺なり、而して建物一棟當り宅地面積は三十坪八勺、同建物延坪數は二十坪九合一勺なり。  
前記總棟數の内、移轉を要するもの二千三百七十三棟にして、爾餘の八十棟は換地の關係に依り、其の儘据置き得る不要移轉建物なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	建物總數		内		譯	
	棟數	延坪數	要移轉建物 棟數	延坪數	不要移轉建物 棟數	延坪數
木造建物	二、三九八	四三、六五 <sup>坪</sup> ・四	二、三〇〇	四三、八五 <sup>坪</sup> ・八三	六	二、七九 <sup>坪</sup> ・六二
石造平家建	五	二二・八	三	五・五	二	六〇・五
同階建	一	二・六	一	二・六	一	一〇八・五
煉瓦造平家建	二	五四・三	二〇	四六・八	三	一〇八・五
同階建	一〇	二八・二	八	二四・三	二	五八・〇

第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

建物總數に對する百分比	棟數	要移轉棟數に對する百分比	延坪數	一棟平均坪數
同 三階建	三	八・七〇	一	六・〇〇
鐵骨造 平家建	五	九・七〇	一	
同 二階建	一	四九・二〇	一	
鐵筋コンクリート建	二	五三・七六	二	
平家建	二	一七・三三	一	一四・五〇
同 二階建	一	六・五九	一	
同 三階建	一	一五・〇〇	一	一六五・〇〇
同 四階建	一	四、〇二・五〇	一	四、〇二・五〇
同 五階建	一	五、二六・一六	一	七、三六・三七
計	二、四三三	二、三三三	八五、九二・七九	一四・三六
建物總數に對する百分比	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	六・七四	三・三六

二七二

要移轉建物の用途を大別すれば、住宅九百四十棟の三割九分を最高とし、商店七百三十九棟の三割一分之に次ぎ、以下倉庫、運送業、飲食店等の順位なり、之を表示すれば左の如し。

種別	棟數	要移轉棟數に對する百分比	延坪數	一棟平均坪數
官署	三	〇・一三	三〇・八八	一〇・二九
學校	四	〇・一七	六五・八五	一六・九六
神社	一五	〇・六三	五〇・四四	三・三六

種別	棟數	延坪數	一棟平均坪數	
病院	七	〇・二九	三三〇・九一	四七・八四
醫院	一三	〇・五五	一三三・〇〇	一七・〇八
銀行	三	〇・二三	一三三・〇〇	四四・〇〇
事務所	一	一・五九	一〇一四・九〇	二七・四二







第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

倉庫	三六五	一五・三六	九、八四・六	二六・九
其他	三	〇・三	三〇・七	一〇・三
計	二、三三三	一〇〇・〇〇	四三、九三・九	一八・五

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て、假設建築物として新築、改築、増築等の爲、東京府知事に許可申請を爲したるもの、建物四百六十五棟、内許可せられたるもの四百一棟、許可せられざりしもの六十四棟なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず新築、改築、増築等を爲し、事業施行の必要上、移轉を要したるもの四十八棟なり。以上の建物を新築、改築、増築等に區分し、尙不許可處分を爲したるものに對しては、其の原因を類別し各之を表示すべし。

假設建築物築造申請に對する種別調

區分	申請		許可		不許可	
	建物棟數	工作物件數	建物棟數	工作物件數	建物棟數	工作物件數
新築	三三三		三六		三	
改築	一三		九		四	
増築	九		六		三	
計	四六五		四一		一〇	

不許可處分の原因調

區分	建物棟數	工作物件數
路	四三	
線	三	
支	三	
支	三	
障	三	
障	三	



第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

二七五

路 線 支 障、 坪 數 超 過	坪 數 超 過	換 地 支 障	路 線 支 障	區 分	建 物 棟 數	工 作 物 件 數
計					四 一 七 三 四	

不許可處分の原因調

增 計	築 計	四 五	九 三		四 一 七 三 四	四 三 四
--------	--------	--------	--------	--	-----------------------	-------------



第二章 移轉計畫

本地區は之を八十二箇の移轉群に分ち、大正十四年九月より建物及工作物の現状調査に着手し、調査の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、昭和二年三月全部の移轉計畫を終了せり。而して要移轉建物二千三百七十三棟に對する移轉工法を見るに、曳方一部除却に依るもの千二百八十五棟にして五割四分を占め、之に次ぐは移築一部除却の六百四十四棟にして二割七分に相當し、他は曳方、移築、据置一部除却、特別移築の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	工法別棟數						計
	曳方	曳方一部除却	移築	移築一部除却	据置一部除却	特別移築	
木造建物	二五	一八〇	二〇	六六	五	八	二、三〇〇
石造平家建		一		一	一		三
同二階建				一			一
同煉瓦造平家建			七	九			一六
同二階建			四	四			八
同三階建			一				一
同鐵骨造平家建		四					四
同鐵筋コンクリート建造				一			一
平家建造					一		一
計	二五	一八〇	二〇	六六	五	八	二、三〇〇

種別	工法別棟數						計
	曳方	曳方一部除却	移築	移築一部除却	据置一部除却	特別移築	
同二階建	一						一
同三階建							
計	一						一
要移轉總棟數に對する比	一〇・八三	五四・一五	五・四	二七・四	二・四〇	〇・三四	一〇〇・〇〇

要移轉建物二千三百七十三棟中、越前堀一丁目四番ノ十、同五番ノ一及銀町一丁目十六番ノ一、同十八



同 二階建  
鐵筋コンクリート  
平家建造

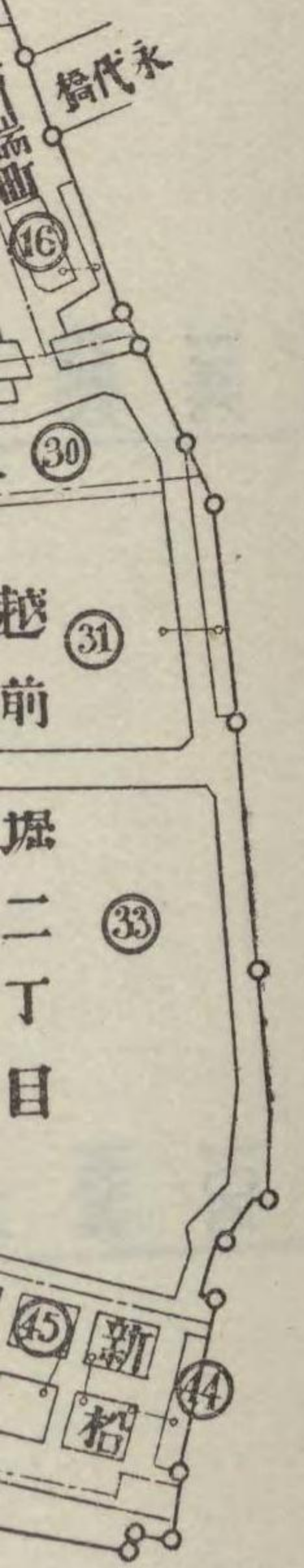
同 二階建	同 三階建	計	
		同 二階建	同 三階建
100.00	2,373	100.00	2,373
0.34	8	0.34	8
2.40	5	2.40	5
27.24	64	27.24	64
5.4	13	5.4	13
54.15	125	54.15	125
10.83	27	10.83	27

要移轉建物二千三百七十三棟中、越前堀一丁目四番ノ十、同五番ノ一及銀町一丁目十六番ノ一同十八番の一所所在建物二十棟は、東京市明正尋常小學校（同東京市靈巖島尋常小學校併合）校舍新築の爲、又越前堀一丁目十番ノ四所在建物二十棟は、幹線第十七號街路新設の爲、急速移轉を要したるに依り、共に一般計畫より分離し、大正十四年十月より翌十五年二月迄に移轉工事を實施することとし、爾餘の二千三百三十三棟の移轉實施期間を、大正十五年七月より昭和三年二月迄の一年八月とし、大正十五年に於て四百五十二棟、昭和二年に於て千八百六十棟、翌三年に於ては二月迄に二十一棟の工事を完了することに豫定したり、之を月別に示せば左の如し。

年	月												計	累計
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
大正十四年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12
大正十五年	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	25
昭和元年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	37
昭和二年	17	19	26	26	26	26	26	16	13	7	3	3	186	223
昭和三年	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11	234
同	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11	245

前記計畫に依るときは、要移轉建物二千三百七十三棟、此の延坪數四萬三千九百三十一坪七合九勺は  
第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉  
二七七





種別	整理前建物		整理後建物		差引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造建物	二、三〇	四、八五・八三	二、三〇	四、三五・六		八、五二・八七
石造平家建	三	五・五	三	四・五		一一・〇四
同二階建	一	一一・六	一	七・四		四・一八
煉瓦造平家建	二〇	四六・八	二〇	三六・三		一〇・四
同二階建	八	二四・三	八	一九・三		五・〇
同三階建	一	二〇・七〇	一	二〇・七〇		三・九〇
鐵骨造平家建	五	九・七〇	五	七・二		二・五
同二階建	一	四・二〇	一	二・六		一・六
鐵筋コンクリート造	二	五・七	二	四・六		一・一
同二階建	一	三・八	一	三・二		〇・六
同三階建	一	六・五	一	三・六		二・九
計	二、三三	四、九二・六	二、三三	三、四〇・七		八、五二・五

第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

整理後に於て其の棟數に増減なきも、坪數に於ては一割九分七厘の縮少を來し、三萬五千二百四十坪七合四勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

二七八







第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

大正十五年四月二日第一次移轉命令として、銀町二丁目第二十九、第三十移轉群建物五十一棟に對し、移轉命令十六通、同通知十八通を發し、爾來引續き發令に努め、昭和二年四月十日東湊町一、二丁目及越前堀一丁目の各一部第五十三移轉群外六移轉群の發令を最後とし、要移轉建物二千三百七十三棟の内協議竝直轄移轉に依る六十五棟を除きたる二千三百八棟及工作物に對し、移轉命令千六百二十四通、同通知二千九十六通を發し、茲に全部の發令を終へたり、之を月別に示せば左の如し。

年	月	命令棟數	命令通知數	命令通知通數
大正十五年 昭和元年	四	八	三	四
	五	一七	六	一〇
	六	一六	一四	一〇
	七	一九	一七	一〇
	八	一四	九	一〇
	九	三六	二五	四〇
	十	二六	一六	一〇
	十	一〇	三	一〇
	十	三〇	二四	三〇
	計	二	一六八	一、二七

昭和二年  
四 三 二 一  
月 月 月 月

一五 一四 一三 六  
一五 一四 一三 六

一六 一三 一六 八



合 計	昭和二年			
	一 月	二 月	三 月	四 月
二、三〇八	六〇	一五	一九	二三
一、六四	五七	一〇	一四	一九
二、〇九	六八	二八	一九	三六

備考 本表中には移轉命令發令後取消を爲したるものを含まず。

第二節 協議並直轄移轉

第一 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物六十三棟、工作物四十三件あり、内建物二棟、工作物二件は官公署の所有に係り、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるものにして、其の他の建物六十一棟、工作物四十一件は民有に係り、之が施行理由を述べれば、東京市明正尋常小學校々舎新築の關係に依り移轉を要したるもの建物二十棟、工作物一件及幹線第十七號街路新設の關係に依るもの建物二十棟、移轉促進の爲特に急施を要したるもの建物二十一棟、工作物四十件なり。

第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの建物二棟、工作物五件あり、内建物二棟、工作物四件は官公署の所有に係り、其の希望に依り直轄施行を爲したるものにして、其の他の民有に屬する工作物一件は街路工事の實施に當り新に發見し、之が移轉方に付所有者に交渉したるも應ぜざりしに依るものなり。

第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉







第十九地區 乙 建物其他の工作物移轉

區分	金額	坪	譯當	建物棟數		延坪數		補償金	
				棟數	坪數	延坪數	坪數	金額	坪數
建物移轉料	一、二四、九〇六・三 <sup>円</sup>		一八・五	二、三七三	四三、九三・七 <sup>坪</sup>	二、〇〇六、三五七・九 <sup>円</sup>			
工作物移轉料	一〇五、三〇六・八五		四・六七						
造作移轉料	二四、三八三・五六		〇・五						
動產移轉料	一九、九五・八〇		四・四						
休業補償	一九〇、三二・九五		四・三						
雜費	一六、七五・四		三・二						
計	二、〇〇六、三五七・九 <sup>円</sup>		四・六						







前掲補償金及移轉料の總額を、更に種別毎に分類して示せば左の如し。  
 一 補償審査會に於て決定せる補償金

建物棟數	延坪數	補償金	區分		譯
			內	當	
二二六〇	四〇、七九・五 <sup>坪</sup>	一、八四、八八・五 <sup>円</sup>	建物移轉料	一、八二、三五・二 <sup>円</sup>	二八・九七 <sup>円</sup>
			工作物移轉料	一五、一七・六	四・五四
			造作移轉料	二四、三三・五	〇・五九
			動産移轉料	一八、三八・〇六	四・六四
			休業補償	一八、七三・六〇	四・五三
			雜費	二九、九五・九七	三・一九
			計	一、八四、八八・五	四六・四六

第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

二 協議移轉に依る移轉料

二八六

建物棟數	延坪數	移轉料	區分金額		坪當
			內	譯	
三	一、七三・三 <sup>坪</sup>	八四、〇三・六 <sup>円</sup>	建物移轉料 工作物移轉料 造作移轉料 動産移轉料 休業補償 雜費 計	五、八一〇・七 <sup>円</sup> 一五、三五七・一 一五九・九 <sup>三</sup> 五、二〇六・七〇 四、六九〇・九 五、七九二・四八 八四、〇三六・六 <sup>四</sup>	二元・六二 <sup>円</sup> 八・六三 〇・〇九 二・九二 二・六二 三・二五 四七・一三

備考

東京市靈巖島尋常小學校々舎新築工事の爲、協議に依りたる建物二十棟並工作物一件に對する移轉料總額三萬六千五百六十九圓三十一錢にして、内京橋區に於て負擔したる九千六百四十六圓三十九錢は本表に含まず。

三 直轄移轉工事費並其の補償金

區分	棟數又は件數	延坪數	補償金額	工事費
				五、六四・六〇 <sup>円</sup>



三 直轄移轉工事費並其の補償金

區分	棟數又は件數	延坪數	補償金	工事費
建物	二棟	九・七 <sup>坪</sup>	三九・七 <sup>円</sup>	一、二八三・二
工作物	五二件棟	九・七 <sup>坪</sup>	三九・七	一、八四七・八
計				五、六四・六 <sup>円</sup>

四 不許可建物の移轉料

建物棟數	延坪數	移轉料	内訳	
			區分	金額
四	一、三五九・五 <sup>坪</sup>	二四、〇四・六 <sup>円</sup>	建物移轉料	二〇、一四五・七 <sup>円</sup>
			工作物移轉料	三、二三六・四 <sup>円</sup>
			雜費	六九三・〇〇
			計	二四、〇四・六
				一、七・七

第十九地區

乙 建物其の他の工作物移轉



五 豫告を受けざる占有者の移轉料

件 數	移 轉 料	區 内		分 金	譯 額
		工 作 物 移 轉 料	造 作 移 轉 料		
三	一、三三二・六 <sup>円</sup>				
		工 作 物 移 轉 料	造 作 移 轉 料		
		休 業 補 償	動 産 移 轉 料		
		雜 費			
		計			一、三三二・六

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は大正十五年五月より開始し、爾來決定の都度之が通知をなし、昭和二年十一月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は同三年九月に及びたり。

然るに前記通知書中、住所不明の爲返送せられたるもの多數あり、右は何れも住所異動に因るものなるを以て、之等に對しては極力其の移轉先を調査の上判明したる者には夫々通知を爲し、全く所在不明なるものに付ては昭和四年四月二十三日日本市公報に掲載し公示送達をなせり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、大正十四年十一月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額二百萬五千八百七十四圓四十九錢にして、内國負擔額百一萬九千六百八十圓二十三錢、市負擔額九十八萬六千九百九十四圓二十六錢なり。而して昭和三年九月即ち移轉完了迄に、要移轉建物の内、抵當權の設定ありたるもの百八十九棟、此



るを以て、之等に對しては極力其の移轉先を調査の上判明したる者には夫々通知を爲し、全く所在不明なるものには昭和三十四年四月二十三日日本市公報に掲載し公示送達をなせり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、大正十四年十一月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額二百萬五千八百七十四圓四十九錢にして、内國負擔額百一萬九千六百八十圓二十三錢、市負擔額九十八萬六千九百九十四圓二十六錢なり。而して昭和三年九月即ち移轉完了迄に、要移轉建物の内、抵當權の設定ありたるもの百八十九棟、此の件數百九十五件ありしが、何れも抵當權者の同意を得て支拂を了したり。

大正十四年

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字が並んでいる）

第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉



## 第五章 移轉實施

## 第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、東京市靈巖島尋常小學校々舎新築並幹線第十七號街路新設の爲、急速移轉を要したる建物四十棟は、大正十四年十月より翌十五年二月迄に、其の他の建物二千三百三十三棟は、大正十五年七月より昭和三年二月迄に完了する豫定にして、之が實施の概要を述べれば、前記特別取扱をなしたる建物四十棟は、豫定の如く大正十五年二月迄に之を完了したるも、其の他の建物二千三百三十三棟に對する移轉は、各年共豫定の工程を見る能はず、最終工期たる昭和三年二月迄に移轉完了の豫定なりし二千三百三十三棟の内、千六百四十二棟は豫定期間中に、殘餘の六百九十一棟は同三年九月迄に、尙建物以外の工作物も同時期迄に移轉を了し、結局豫定に遅ること七箇月にして全部の完了を見たり、右特別取扱に係る四十棟を除き之を年別に示せば左の如し。

大正十五年に於ける移轉  
昭和元年に於ける移轉

大正十五年七月より十二月に至る工事豫定棟數四百五十二棟に對し、工事完了せるもの百八十八棟、此の進捗歩合四割一分六厘にして、殘餘の二百六十四棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。

## 昭和二年に於ける移轉

昭和二年一月より十二月に至る既定の工事豫定棟數千八百六十棟、之に前年より繰越しに係る二百六十四棟を加へたる合計二千二百二十四棟は、此の期に於て工事施行を要する棟數なり、内工事完了したる

もの千三百十四棟、此の進捗歩合六割一分九厘にして、殘餘の八百十棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。

## 昭和三年に於ける移轉

昭和三年一月より二月に至る既定の工事豫定棟數二十一棟、之に前年より繰越しに係る八百十棟を加



昭和二年一月より十二月に至る既定の工事豫定棟數千八百六十棟、之に前年より繰越しに係る二百六十四棟を加へたる合計二千二百二十四棟は、此の期に於て工事施行を要する棟數なり、内工事完了したる

もの千三百十四棟、此の進捗歩合六割一分九厘にして、殘餘の八百十棟は工事未了の儘翌年に繰越したる。

昭和三年に於ける移轉

昭和三年一月より二月に至る既定の工事豫定棟數二十一棟、之に前年より繰越しに係る八百十棟を加へたる合計八百三十一棟は、此の期に於て工事施行を要する棟數なり、内工事完了したるもの百四十棟此の進捗歩合一割六分八厘にして、殘餘の六百九十一棟は同年九月迄に之を完了したり、而して工事の遅延したる主なる原因は、幹線第七、第十七號街路新設のため、飛換地多く従つて建物移轉に際し少からざる困難を伴ひたる結果なり。

今前掲移轉を了したる建物を、更に移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの二千三百八棟(内代執行を爲したるもの三棟を含む協議に依りたるもの六十三棟、直轄工事に依りたるもの二棟なり。

移轉實施月別棟數表 (本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む)

年	月	移轉命令		補償金決定		工事完了豫定		工事完了	
		月別	累計	月別	累計	月別	累計	月別	累計
大正十四年	九月	一	一	一	一	一	一	一	一
	十月	七	八	七	八	四	五	一	二
	十一月	〇	八	〇	八	四	九	一	三
	十二月	三	一一	三	一一	四	一三	一	四
		三	一一	三	一一	三	一三	一	四

第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

昭和二年							大正十五年											
七	六	五	四	三	二	一	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
一	一	一	一五	一五	一七	一八	三〇	一〇	一三	一三	一四	一〇	一六	二八	一四	一	一	元
二、三七一	二、三三〇	二、三三〇	二、三三〇	二、三三〇	二、三三〇	一、七六六	一、七五五	一、三六五	一、二六二	一、二六二	一、二六二	一、二六二	一、二六二	一、二六二	一、二六二	一、二六二	一、二六二	四〇
九	九	二六	一四	三五	一七	七	四七〇	四	二〇	一九	七	三三	三	三	一	一	一	元
二、二二八	二、二二五	二、二〇三	一、七九	一、六三	一、三〇八	一、一〇一	一、一三三	六	六	四	三	二	一	五	四	四	四	四〇
一三	二六	二六	二六	二六	一九	一三	七	一五	九	九	九	一	一	一	一	一	一	一
一、九五一	一、七九	一、五二	一、三六	一、一〇〇	八六	六六	四九	四三	二五	一六	九	四	四	四	四	四	四	三
一四〇	一四	一〇	六	三	二	〇	元	元	元	元	八	一	一	一	一	一	一	元
八八	七九	六〇	四七	三七	三二	二八	二八	一九	一五	一〇	六	四	四	四	四	四	四	三



第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉

昭和三年											
九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
											二
											二、七三
										三	五
									二、七三	二、五〇	二、三六
								二	〇	三	七
							二、三三	二、三二	二、三三	二、三九	二、二九
三	四	一七	三	一六	一四	一三	〇	〇	三	一七	一三
二、七三	二、三二	二、一七	二、一〇	二、〇七	一、九元	一、八五	一、六八	一、六〇	一、五四	一、四〇	一、二九



第二節 代執行

移轉命令を受け指定期限を経過し、現場係員より工事實施方に付屢次誘導督勵を爲すも、容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したるもの建物四十五棟ありたり。

戒告後尙其の義務を履行せざる爲代執行を爲したるもの三棟あり、其の主なる原因は、借地權に關する係争に依り自ら移轉すること困難なりしもの一人一棟、占有者との間に係争を生じ自ら移轉し得ざるもの一人一棟、自己の怠慢に依るもの一人一棟なり。

行政執行法に依り處分したるものを表示すれば左の如し。

區	分	件	數	建物棟數	工作物件數
戒告書を發したるもの 戒告後自ら移轉したるもの 代執行を爲したるもの			三 三 三	三 四 五	

第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始前に於て、臨時收容家屋準備の必要を認め、大正十四年八月越前堀一丁目十番に移動式住宅十七棟、同物置四棟を設置し、同年十月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用希望者増加したるを以て、順次増設を爲し、昭和三年十月迄其の用に供したり、之が棟數及世帶數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數		設置		撤去		收容	
	住宅	物置	年月	年月	期	間	住	宅
					住宅	物置	世帶數	一棟當人員
					至	至	人員	世帶數
					三・〇六	二七三	一六・〇六	三
					三・〇〇	三・〇〇		



希望者増加したるを以て、順次増設を爲し、昭和三年十月迄其の用に供したり、之が棟數及世帶數等を  
示せば左の如し。

設置場所	棟數	住宅	設置		撤去		住宅	期間	住	宅	客			
			年月	年月	年月	年月								
京橋區越前堀一丁目十番	一七	四	大正一四、八	昭和三、四	自大正一四、一〇	至昭和二、四	同上	同上	五	三〇六	二七三	一六〇六	三	三〇〇
同 越前堀一丁目四番	八	一	同 一四、〇	同 三、六	自大正一四、〇	至昭和三、六	同上	同上	三	四・五	二七	二六・六	一	一
同 川口町十三、十四番	一六	五	同 一五、一	同 二、八	自大正一五、二	至昭和二、七	同上	同上	五	三・六	二九二	一八・二五	一六	三・〇
同 四日市町北新河岸四號	四	一	同 一五、四	同 三、二	自昭和二、〇	至昭和二、〇	同上	同上	九	二・五	三元	九・七五	一	一
同 鹽町十六番	七	三	同 一五、二	同 三、四	自大正一五、二	至昭和二、四	同上	同上	四	五・七	二四五	三五・〇	一七	五・六七
同 川口町十五番	六	一	昭和二、三	同 二、六	自昭和二、三	至昭和二、六	同上	同上	六	一・〇〇	三三	五・五〇	一	一
同 越前堀一丁目第十七號幹線街路上	二四	四	同 二、四	同 三、七	自同	至同	同上	同上	九	三・九	四六六	一九・四二	一四	三・五〇
同 銀町一丁目十五番 (越前堀小公園内)	三	二	同 二、四	同 四、四	自同	至同	同上	同上	一四〇	四・五	八六〇	二七・七四	四	三・七三
同 越前堀二丁目六番地先道路上	一五	一	同 二、八	同 四、五	自同	至同	同上	同上	五	三・四七	二九九	一九・九三	一	一
同 銀町一丁目十五番 (越前堀小公園内)	三 (二八戸分)	一	同 二、二	同 四、四	自同	至同	同上	同上	五	二・七	二六六	一四・七六	一	一

第十九地區 乙 建物其他の工作物移轉







工事を施行し、昭和四年五月、四日市町十八番の盛土工事を最後とし、百二十九件の工事を全部完了せり、之に因る宅地造成完了總面積は四萬百九十坪五合二勺なり、其の工事状況を見るに左の如し。

種別	工数	工事箇所	数量	金額	内		金額
					直	營	
假下水	三三	三三	一、〇五六・九	七、六九〇・七三	三三	一〇	七、三三二・九
土留工	二六	二六	四、五〇〇	二〇、二四〇・八三	一	二五	二〇、一九六・〇三
盛土工	七三	七三	一、五四七・七	七、九〇二・七二	五	八	五、九九五・六八
切土工	七	七	二、五八・三	一、一五〇・七〇	一	六	一、二一九・五〇
計	一三五	一三五	一	三六、九八・九六	四〇	四六	三四、五四・一九

第十九地區 乙 建物其の他の工作物移轉







種別	市水道局		市電氣局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		電話		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
集一地區計	管線路 二、一〇三・〇	電柱 一八、七三六・〇〇	管線路 二、〇一九・一	電柱 七、〇〇七	管線路 二、〇七六	電柱 九、七三八・九三	管線路 四、三三五・四	電柱 一六、一四九・八〇	管線路 一、五三三	電柱 一〇、四八・九九	管線路 八、六六五・一	電柱 四、三〇八・五四
應急工事	管線路 七三間	電柱 四九六・二四	管線路 三三〇	電柱 一、一三〇・四三	管線路 三所	電柱 四三三・六〇	管線路 一所	電柱 五三・九二	管線路 一四	電柱 一、六三六・五七	管線路 二九三・〇	電柱 一、四九七・二五
整理	管線路 一〇所	電柱 一、〇〇九・七四	管線路 二本	電柱 一、二六六・九	管線路 一四九本	電柱 六、四九九・〇二	管線路 一四所	電柱 五三・九二	管線路 一六〇本	電柱 六、五三三・五七	管線路 二、三三二	電柱 六、一九九・八八
假本	管線路 一、〇一〇・一	電柱 三、九九五・〇九	管線路 二所	電柱 六〇八・三元	管線路 二・五	電柱 一、三三・九四	管線路 一、一八九・六	電柱 二、〇七〇・八五	管線路 二所	電柱 六〇八・三元	管線路 二、三三二	電柱 六、一九九・八八
私路	管線路 一、六三二	電柱 三、一五八・三三	管線路 六件	電柱 六、五七三・六	管線路 二、一七四件	電柱 六、五七三・六	管線路 一、〇〇〇件	電柱 二、〇六〇・〇〇	管線路 四、八七四件	電柱 七、五、四三三・七七	管線路 四、八七四件	電柱 七、五、四三三・七七
道後修	管線路 九九件	電柱 一、〇五八・五八	管線路 三件	電柱 四三〇・二七	管線路 四三件	電柱 九、七三・八〇	管線路 二、八四件	電柱 三、二八四・二九	管線路 四三八件	電柱 五、七一〇・九四	管線路 四三八件	電柱 五、七一〇・九四
合計	管線路 一、六三二	電柱 三、一五八・三三	管線路 二、〇七六	電柱 九、七三八・九三	管線路 二、一七四	電柱 九、七三八・九三	管線路 二、八四	電柱 三、二八四・二九	管線路 四、八七四	電柱 七、五、四三三・七七	管線路 四、八七四	電柱 七、五、四三三・七七
合計	管線路 一、六三二	電柱 三、一五八・三三	管線路 二、〇七六	電柱 九、七三八・九三	管線路 二、一七四	電柱 九、七三八・九三	管線路 二、八四	電柱 三、二八四・二九	管線路 四、八七四	電柱 七、五、四三三・七七	管線路 四、八七四	電柱 七、五、四三三・七七

備考 一 數量欄中には附帶工事數量は掲げざるも金額は合算せり。  
 第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理







國市負擔區分

種別	水道		市電		東電		瓦斯	斯電話	計
	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔			
一地區集計	計	八、三九、四四	三、三〇、二二	五、四四、六三	七、一五、九一		二四、〇九、三一		
	市負擔	一〇、四六、五六	四、二〇、九七	六、九三、八〇	九、〇三、八九		三〇、六四、二三		
應急整理一工事	計	一八、七六、〇〇	七、五五、三〇	二、三七、六四	一六、二四、八〇		四、七五、三三		
	市負擔	一、五五、八八	七二、三五	九六、七九	五三、九一		三、六八、一五		
假本整理	計	一、五五、八八	一、二六、九三	九六、七九	五三、九一		三、七三、五〇		
	市負擔	三、九五、〇九	六九一、九四	六、五七、九六	二、〇〇、八五		一三、三〇、八四		
事業者拂	計	一五、〇九、七九	二六一、三〇	八、〇〇、九〇	九、二五、八〇		三、六九、〇〇		
	市負擔	一五、〇六、二七	一五、〇四	八、五九、六一	九、二七、二〇		三、〇八、五〇		
私有管線 (現金補償 個人拂)	計	三〇、一五、〇五	四七、七六	一六、六七、五三	一八、五〇、三三		五、六八、四七		
	市負擔	一、六〇、八一	一九〇、八四	二、三五、六六	一、三七、〇六		三、九五、三六		
計	市負擔	一、三六、一七	四五、五五	一、八五、七二	七二、七二		九、六六、八三		
	國負擔	三、〇〇、一八	三三六、四〇	四、三四、三三	二、〇九、六六		三、三二、四七		
計	市負擔	一六、七三、五九	四五二、一四	一〇、四六、五五	一〇、六五、〇八		三、〇〇、九〇		
	國負擔	一六、四六、六四	二〇二、〇二	一〇、四七、三二	九、九四、九二		三、四三、三三		
計	計	三三、二八、二二	六四〇、一六	二〇、九三、八八	二〇、六〇、〇〇	三〇・一	七五、四三、七七		

第十九地區

丙 地下埋設物其他工作物整理



第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

合 計	道 路 後 修	
	市負擔	國負擔
計	一、〇五八・五	一、〇五八・五
市負擔	二、四七二・〇三	二、四七二・〇三
國負擔	三、四七二・七五	三、四七二・七五
計	五、九四四・七八	五、九四四・七八
市負擔	三、八六二・八二	三、八六二・八二
國負擔	六、六九一・七七	六、六九一・七七
計	一〇、五五四・五九	一〇、五五四・五九
市負擔	四、〇二七・二七	四、〇二七・二七
國負擔	九、七二〇・八〇	九、七二〇・八〇
計	一三、七四八・〇七	一三、七四八・〇七
市負擔	一五、九二二・一九	一五、九二二・一九
國負擔	二五、八四五・六七	二五、八四五・六七
計	四一、七六八・八六	四一、七六八・八六
市負擔	三、二八四・二九	三、二八四・二九
國負擔	一七、七五〇・九九	一七、七五〇・九九
計	二〇、〇三四・二八	二〇、〇三四・二八
市負擔	七・二〇	七・二〇
國負擔	一三、八四八・〇五	一三、八四八・〇五
計	一五、〇四八・〇五	一五、〇四八・〇五

三〇二

年度別工事費支拂進捗状況

種 別	年度別					支拂未済	計
	大正十四年	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年		
一地區集計	一、〇五二・二	七、四八二・三	三、五八三・九	六、九四五・五	一八、七四五・六	—	五、七五七・五
應急整理一工事	—	—	五八五・九	一、九七三・八	一七・六六	—	三、七五三・五
假本整理	—	—	一、〇五七・五	一、四九一・八	五、二五九・八	—	一三、三〇〇・八
私有管線	—	—	—	—	—	—	—
道路後修	二、一三三・七	二、〇五・五	一八、〇七三・四	四三、三八一・六	九、〇五八・三	五、四七〇・二	七五、四三三・七
計	二、一三三・七	二、一六〇・七	二七、一九六・八	六七、四七〇・四	二六、九三三・二	一一、二七三・四	一三三、九六六・八
進捗歩合%	—	—	一八	四四	一八	—	一〇〇

第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計



第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱百五十一本、管線路一萬八百十間三及之に關係せる各種工作物にして、此の整理費六萬四千七百五十一圓九十九錢なり、而して假契約は水道工作物に關し大正十五年二月十日締結したるを、工事は同じく水道工作物に關し同年三月一日著手したるを、本契約は市電工作物に關し昭和三年二月二十一日締結したるを各々最初とし、それより逐次各事業者と契約を締結し工事を施行したり、各事業者別契約並工事狀況を示せば左の如し。

事業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	大正一五、二、二〇	昭和三、三、二〇	大正一五、三、一	昭和五、三、三〇
市電氣局	大正一五、二、二七	昭和三、二、三	大正一五、四、九	昭和五、三、八
東京電燈株式會社	大正一五、二、二七	昭和三、四、二	大正一五、三、二四	昭和四、八、二三
東京瓦斯株式會社	大正一五、七、二〇	昭和二、三、三	大正一五、八、三〇	昭和五、二、八

工事施行中設計變更を要したる箇所五十三件ありたる結果、電柱に於て二本増加したるも管線路に於て二千百四十五間二の減少を爲したる爲、工事費に於ては九千九百九十四圓四十六錢の減額を爲せり、其の設計變更狀況を見るに左の如し。



第十九地區 丙 地下埋設物其他の工作物整理

三〇四

種別	電		柱		管線		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
當初契約	一五 <sub>本</sub>	一〇、〇八四・三六	一〇、八二〇・三 <sub>開</sub>	五、六六七・六一			六、七五二・九 <sub>円</sub>
設計變更後(精算)	一五	一〇、四四八・九九	八、六六五・一	四、三〇八・五四			四、九七三・五
差引増△減	二	三、六四六・六	△二、一五五・二	△一〇、五五九・〇七			九、九四〇・四六

尙工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電		柱		管線		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
大正十四年	五 <sub>本</sub>	四八・七六	四・二 <sub>開</sub>	三七・四五			四六・二 <sub>円</sub>	一
大正十五年	一八	一、五〇九・五三	九九七・〇	四、九六一・二三			六、四七〇・七五	二
昭和元年	一〇三	七、九三三・八五	三、二七〇	三、三二二・五三			二二、二五二・六六	三
昭和二年	二	二七九・三三	三、三三二・七	一八、七九二・三三			一九、〇五八・六〇	五
昭和三年	一六	三〇七・四六	一、二二四・二	七、一〇九・一一			七、五二六・五七	三
昭和四年	一五	一〇、四八八・九九	八、六六五・一	四、三〇八・五四			四、九七三・五	三
計								一〇〇

支拂狀況

年度	國負擔	市負擔	計	歩合%
昭和四年	三、一九二・三三	四、一九〇・一一	七、四八二・四四	一〇〇
計				



昭和四年	一五	三〇七・四六	一、二四・二二	七、一〇九・二二	七、五二六・五七	一〇〇
計	一〇、四八・九九	八、六六・六一	四、三〇八・四〇	四、七五七・五三	一〇〇	一三

支拂状況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	歩 合 %
昭和二年	三、二九二・三三	四、一九〇・一一	七、四八二・四四	一四
昭和三年	九、四九六・九五	二、〇八七・〇三	二、五八三・九七	三
昭和四年	三、〇五六・〇六	三、八八九・五三	六、九四五・五九	一三
昭和五年	八、二四八・〇七	一〇、四九七・五六	一八、七四五・六三	四
計	二四、〇九二・三三	三〇、九六二・三三	四五、〇五四・六六	一〇〇

第一 水道

一 契 約 大正十五年二月十日管線路二千七十一間及關係工作物に對し整理費二萬八百三十六圓七十八錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和三年三月二十日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國九千六百六十八圓十八錢、市一萬千六百六十八圓六十錢なり。

二 工 事 大正十五年二月十日假契約成立せるを以て同月二十七日最初の工事要求を爲し、同年三月一日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中四件の設計變更を爲したる結果新設千四百九十八間、撤去四百四十間九、埋殺百六十四間一、計二千百三間となり、管線路に於て三十二間の増加を爲したり、而して昭和五年三月三十日を以て總工事を完了し同年五月五日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。



年 度	管 線		歩 合 %
	數	額	
大正十四年	四・二	三七・四五	一
大正十五年	二七・三	二、四五・六五	一三
昭和元年	二八・三	一、四二・二九	六
昭和二年	一、四四・〇	一〇、一八・九四	六
昭和三年	五五・二	四、九四・六七	二六
昭和四年	一一、〇四・〇	一八、七三・〇〇	一〇
計			

三 精 算 本地區に於ける契約金額は二萬八千三百六十六圓七十八錢内國負擔九千六百六十八圓十八錢、市負擔一萬千六百六十八圓六十錢にして、第一回前渡金は昭和三年四月三十日、第二回前渡金は同五年一月二十三日支拂手續を爲し、同年十二月三日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額一萬八千七百二十六圓となり、契約金額に比し二千百十圓七十八錢の減額を見たり、之を工種別に見るに、新設千五十七間一金額一萬四十二圓四十九錢、移設四百四十間九金額六千八百五十一圓十錢、其他金額千八百三十二圓四十一錢にして國市負擔區分は國八千二百三十九圓四十四錢、市一萬四百八十六圓五十六錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減



負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	五、五八・四七 <sup>坪</sup>	四	九、一六八・一八 <sup>円</sup>	八、三三九・四四 <sup>円</sup>	△ 九六・七四 <sup>円</sup>
補助線街路費	二、七三九・四九	三	四、五四〇・九	四、二九・七三	△ 四六四・三七
土地整理費	三、五〇一・三五	二七	五、六五・九三	五、〇五・〇二	△ 五六九・九一
市負擔 小公園費	九三・三	七	一、四五六・五八	一、三〇・八二	△ 一四七・七六
計	七、一三三・一五	五	二、一六八・〇六	一、〇四八・六五	△ 一、一八三・四一
合計	三、七四一・三二	一〇〇	三〇、八三六・七六	一八、七三六・〇〇	△ 二、一一〇・七六

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	二、六七・六九 <sup>円</sup>	九、五八・〇八 <sup>円</sup>	△ 二、〇六九・六 <sup>円</sup>
過不足分(一致せざる部分)	六、六八・二三	七、三四五・五	△ 六六六・二六
累計する分	一、一四三・五二	七八・四〇	△ 三六〇・一一
小計	一九、四九・三三	一七、六五・九九	△ 一、七三三・三四
附帯工事(假工事を含む)	一、三三七・四五	一、〇五〇・〇一	△ 三三七・四四
補償額計	三〇、八三六・七六	一八、七三六・〇〇	△ 二、一一〇・七六

第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第二電氣

(イ) 市電

一 契約 大正十五年二月十七日電柱四十一本、地中線二千三百十三間三及關係工作物に對し整理費一萬千三百九十五圓九十一錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和三年二月二十一日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國五千十四圓二十錢、市六千三百八十一圓七十一錢なり。

二 工事 大正十五年二月十七日假契約成立せるを以て、同月二十七日最初の工事要求を爲し同年四月九日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中十一件の設計變更を爲したる結果電柱新設十六本、撤去二十一本、計三十七本、地中線新設七百六十六間、撤去千二百六十三間一計二千二十九間一となり、電柱に於て四本、地中線に於て二百八十四間二の共に減少を爲したり、而して昭和五年三月八日を以て總工事を完了し同月十日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩合%
	數	金額	數	金額		
大正十五年	1本	1,447.36	433.6	1,447.36	1,447.36	1.9
昭和二年	2	2,006.9	597.7	1,875.48	2,006.9	2.6
昭和三年	10	1,917.3	397.8	1,331.7	1,533.9	2.0
昭和四年	16	1,047.8	360.0	1,150.50	2,447.6	3.3
計	37	7,011.4	1,193.1	6,775.3	7,909.3	100

三 精算 本地區に於ける契約金額一萬千三百九十五圓九十一錢内國負擔五千十四圓二十錢、市負擔六千三百八十一圓七十一錢にして、第一回前渡金は昭和三年四月五日支拂手續を爲し、同五年六月十二日精算を完了したり。



昭和四年	16	109,460	60,000	11,103,100	11,100,000	2,477,960	100
計	17	110,000	11,013,100	6,995,130	9,908,100	100	

三 精 算 本地區に於ける契約金額一萬千三百九十五圓九十一錢内國負擔五千十四圓二十錢、市負擔六千三百八十一圓七十一錢にして、第一回前渡金は昭和三年四月五日支拂手續を爲し、同五年六月十二日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額七千五百五圓三十錢となり、契約金額に比し三千八百九十圓六十一錢の減額を見たり、之を工種別に見るに、新設地中線六十九間五金額二千九百九十六圓二錢、移設電柱十六本、地中線六百九十六間五金額四千七百六圓八十八錢、其他金額六百二圓四十錢にして國市負擔區分は國三千三百二圓三十三錢、市四千二百二圓九十七錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	五,五八・四七 <sup>坪</sup>	四	五,〇四・二〇 <sup>円</sup>	三,三〇二・三三 <sup>円</sup>	△ 一,七二・八七 <sup>円</sup>
補助線街路費	二,七九・四九	三	二,五〇七・一〇	一,六五一・二七	△ 八五五・九三
土地整理費	三,五〇・三五	七	三,〇七六・九〇	二,〇六・四三	△ 一,〇一〇・四七
市負擔 小公園費	九三・三三	七	七九七・七一	五五・三七	△ 二七二・三四
計	七,二六・二五	五	六,三八一・七七	四,一〇二・九七	△ 二,二七八・八〇
合 計	一三,四一・三二	一〇〇	一一,三九五・九一	七,五〇五・三〇	△ 三,八九〇・六一



補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	五、五元・九三	四、七六・八八	△ 八三・〇四
過不足分(一致せざる部分)	四、八三〇・〇〇	二、二九六・〇三	△ 二、五三三・九八
累計する分	—	一九・五二	一九・五二
小計	一〇、三九〇・九三	六、九三三・四二	△ 三、四五七・五一
附帶工事(假工事を含む)	一、〇三五・九八	五八二・八九	△ 四五三・一〇
補償額計	一一、三九五・九一	七、五〇八・三〇	△ 三、八八七・六一

(ロ) 東電

一 契約 大正十五年二月二十七日電柱百十本、地中線六十八間及關係工作物に對し整理費一萬七千二百二十五錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和三年四月二日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國四千四百三十一圓七十九錢、市五千六百四十圓四十六錢なり。

二 工事 大正十五年二月二十七日假契約成立せるを以て同年三月最初の工事要求を爲し、同月二十四日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中七件の設計變更を爲したる結果電柱新設五十八本、撤去五十八本計百十六本、地中線新設八十四間六、撤去百二十三間計二百七間六となり、電柱に於て六本、地中線に於て百三十九間六の共に増加を爲したり、而して昭和四年八月二十三日を以て總工事を完了し、翌五年四月十日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩合%
	數 量	金 額	數 量	金 額		
大正十四年	五本	四八・七六	一	—	四八・七六	—



となり、電柱に於て六本、地中線に於て百三十九間六の共に増加を爲したり、而して昭和四年八月二十三日を以て總工事を完了し、翌五年四月十日竣功検査を了したり、其の進捗状況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩 合 %
	數	金 額	數	金 額		
大正十四年	五本	四八・七六	—	—	四八・七六	三
大正十五年	一八	一、五〇九・五三	—	—	一、五〇九・五三	三
昭和元年	九	七、七三・九六	一三・六	一、六九五・九三	九、四八八・八	六
昭和二年	一	八七・空	六・〇	八五・二〇	九三・七五	八
昭和三年	—	—	六・〇	七六・四	七六・四	一
昭和四年	—	—	—	—	—	—
計	二六	九、七七八・九三	二〇七・六	二、六三七・五	一二、三六六・四三	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額一萬七十二圓二十五錢内國負擔四千四百三十一圓七十九錢、市負擔五千六百四十圓四十六錢にして、第一回前渡金は昭和三年六月二十九日支拂手續を爲し、同五年七月二日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額一萬二千三百七十六圓四十三錢となり、契約金額に比し二千三百四圓十八錢の増額を見たり、之を工種別に見るに新設地中線八間金額千三百十八圓五錢、移設電柱五十八本、地中線七十六間六金額九千八百二十圓七十錢、其他金額千二百三十七圓六十八錢にして國市負擔區分は國五千四百四十五圓六十三錢、市六千九百三十圓八十錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。



第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理  
負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	五、五八・四七	四	四、四三・七九	五、四四・六三	一、〇一三・八四
補助線街路費	二、七九・四九	三	二、二五・八九	二、七三・八一	五〇六・九二
土地整理費	三、五〇・一五	二七	二、七九・五一	三、四一・六四	六三・二三
市負擔 小公園費	九三・三三	七	七五・〇六	八六・三五	一六一・二九
計	七、一六・一五	五	五、六四・四六	六、九〇・八〇	一、二九〇・三四
合計	一三、七四・六二	一〇〇	一〇、〇四・二五	一一、三六・四三	一、三〇四・一八

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	八、三六・〇一	九、八〇・七〇	一、四七二・六九
過不足分(一致せざる部分)	七九〇・一五	一、三八・〇五	五七・九〇
累計する分	九・二九	一一八・四二	一九・一三
小計	九、三三・二七	一〇、一五・一七	二、一〇九・七三
附帶工事(假工事を含む)	八四・八〇	一一九・二六	二八四・四六
補償額計	一〇、〇四・二五	一一、三六・四三	一、三〇四・一八

第三瓦 斯

一 契約 大正十五年七月十日管線路六千三百五十八間及關係工作物に對し整理費二萬二千四百四十七圓五錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和二年十二月三日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國九千八百七十六圓七十錢、市一萬二千五百七十圓三十五錢なり。



附帯工事(假工事を含む)	四四・八〇	一、二九・二六	二六四・四六
補償額計	一〇、〇九一・三三	三、三三六・四三	二、三〇五・一八

第三瓦 斯

一 契約 大正十五年七月十日管線路六千三百五十八間及關係工作物に對し整理費二萬二千四百四十七圓五錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和二年十二月三日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國九千八百七十六圓七十錢、市一萬二千五百七十圓三十五錢なり。

二 工事 大正十五年七月十日假契約成立せるを以て同年八月十日最初の要求工事を爲し、同月三十日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中三十一件の設計變更を爲したる結果新設千九百二十七間一、撤去九百八十五間四、埋殺千四百十二間九計四千三百二十五間四となり、管線路に於て二千三十二間六の減少を爲したり、而して昭和五年二月八日を以て總工事を完了し同年五月一日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	管 線		路 額		步 合 %
	數	量	金	額	
大正十五年		二九四・一	一、〇九八・一九		七
昭和二年		二、三〇五・四	八、六〇七・八四		五
昭和三年		一、七二二・九	六、三九五・三		元
昭和四年		一、三〇〇	四八・四五		一
計		四、三三五・四	一六、一四九・八〇		一〇〇

第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

三 精算 本地區に於ける契約金額二萬二千四百四十七圓五錢内國負擔九千八百七十六圓七十錢、市負擔一萬二千五百七十圓三十五錢にして、第一回前渡金は昭和三年三月五日、第二回前渡金は同四年三月二十八日支拂手續を爲し、同五年七月一日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額一萬六千四百四十九圓八十錢となり、契約金額に比し六千二百九十七圓二十五錢の減額を見たり、之を工種別に見るに、新設九百五十八間二金額四千八百二十圓七十七錢、移設九百六十八間九金額八千七百三十五圓七十五錢、其他金額二千五百九十三圓二十八錢にして國市負擔區分は國七千五百五圓九十一錢、市九千四十三圓八十九錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	五、五八・四 <sup>坪</sup>	四	九、八六・七〇	七、一〇・九一	△ 二、七〇・七九
補助線街路費	二、七九・四	三	四、九六・三五	三、五二・九六	△ 一、三四・三九
土地整理費	三、五〇・三五	二七	六、〇〇・七一	四、五〇・四五	△ 一、五〇・二六
市負擔 小公園費	九三・三一	七	一、五二・二元	一、三〇・四八	△ 二二一・七四
計	七、一六・一五	五	三、五七・〇三	九、〇三・八九	△ 五、四六・八六
合計	三、四一・六二	一〇〇	三、四七・〇五	一六、一四・八〇	△ 六、二九七・二五

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工			



補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工 作物と一致せる部分 過不足分(一致せざる部分)	一六、七六・二七	一一、八九・二六	△ 五、五七・九一
累計する部分	一、六四八・四五	二、三六七・二六	△ 七七八・八一
小計	一、九五・七九	二、〇七二・四四	△ 七六・二五
附帯工事(假工事を含む)	二、〇四〇・六四	五二・三四	△ 一、五九・三〇
補償額計	三、四七〇・五	一六、二四九・八〇	△ 六、二九七・三五

第二節 應急整理一工事

本地區に於ける應急整理一工事は件數二十三件整理費三千七百五十三圓五十錢にして、大正十五年一月二十六日市電氣局關係工作物整理に著手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは、市水道局十一件金額千五百五圓八十八錢、市電氣局三件金額千二百三十六圓九十二錢、東京電燈株式會社八件金額九百五十六圓七十九錢、東京瓦斯株式會社一件金額五十三圓九十一錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第十九地區

丙 地下埋設物其他工作物整理



第十九地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

工事種別

種別	水道		市電		東電		瓦斯		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
道 路 工 事	電柱	七〇間	二〇間	二〇間	二所	八六・八	一ヶ所	五・九	二九三間	一、六六・五
	管線路	四九六・二四	一、〇〇九・七四	一、三〇〇・四三	四〇二・三四	五・九	一、四六五・九	一、六六・五	一、四六五・九	一、四六五・九
建 物 支 障	電柱	一、五〇五・八	一、五〇五・八	一、二〇六・七	四八八・五	五・九	三、三二・八	七・二	三、三二・八	三、三二・八
	電柱	一、五〇五・八	一、五〇五・八	一、二〇六・七	四八八・五	五・九	三、三二・八	七・二	三、三二・八	三、三二・八
出 入 口	電柱	一、五〇五・八	一、五〇五・八	一、二〇六・七	四八八・五	五・九	三、三二・八	七・二	三、三二・八	三、三二・八
	電柱	一、五〇五・八	一、五〇五・八	一、二〇六・七	四八八・五	五・九	三、三二・八	七・二	三、三二・八	三、三二・八
合 計	電柱	七〇間	四九六・二四	一、〇〇九・七四	一、三〇〇・四三	四〇二・三四	八六・八	五・九	二九三間	一、六六・五
	管線路	七〇間	四九六・二四	一、〇〇九・七四	一、三〇〇・四三	四〇二・三四	八六・八	五・九	二九三間	一、六六・五
其 他	電柱	一、五〇五・八	一、五〇五・八	一、二〇六・七	四八八・五	五・九	三、三二・八	七・二	三、三二・八	三、三二・八
	電柱	一、五〇五・八	一、五〇五・八	一、二〇六・七	四八八・五	五・九	三、三二・八	七・二	三、三二・八	三、三二・八
計	計	一、五〇五・八	一、五〇五・八	一、二〇六・七	四八八・五	五・九	三、三二・八	七・二	三、三二・八	三、三二・八

工事進捗状況

年 度	電 柱	管 線 路	其 他	計	歩 合 %
數量					
金額					
數量					
金額					
數量					
金額					
計					
歩 合 %					



工事進捗状況

年度	電柱		管線路		其他		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
大正十四年	五本	七・五〇	七・〇	四九六・一四	二ヶ所	七三〇・五三	一、三〇二・一七	三四
大正十五年	一	一	一	一	三	二五八・二四	二五八・二四	七
昭和二年	〇	一〇〇・二二	一	一	四	二九・三三	一五九・五〇	七
昭和三年	二	一七〇・六	一	一	四	三五七・五九	五八・四五	一四
昭和四年	四	二五七・二	二二・〇	一、一三〇・四三	一	一、三八七・五〇	一、三八七・五〇	三七
昭和五年	一	一	一	一	一	一七・六	一七・六	一
計	三	三九・六	二九三・〇	一、六六六・七五	二四	一、四九七・二五	三、七三三・五〇	一〇〇

第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

支拂狀況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	歩 合 %
大正十五年	四	一、〇五五 <sup>四</sup> ・二二	一、〇五五 <sup>四</sup> ・二二	二六
昭和二年	七・三五	五三・八四	五八五・一九	一五
昭和三年		二二・五九	二二・五九	三
昭和四年		一、九七三・八五	一、九七三・八五	五
昭和五年		一七・六六	一七・六六	一
計	七・三五	三、六二一・二五	三、七五五・五〇	一〇〇

第一 水 道

工事は大正十五年一月銀町一丁目七番地先より同町十五番地先に於ける水道鐵管移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、昭和五年六月長崎町二丁目九番地先より同町一丁目十一番地先に於ける消火栓改築工事を最終とし、十一件の工事を全部完了したり、而して之に要したる整理費は千五百五圓八十八錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	管 線 路	其 他	計	歩 合 %
數量	金額	數量	金額	金額
額	額	額	額	額
計	計	計	計	計



圓八十八錢なり、其の工事竣支拂狀況を示せば左の如し。而して之に要したる整理費は千五百五

工事進捗状況

年 度	管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
大正十四年	七〇 <small>開</small>	四九六・二四 <small>円</small>	一 <small>ヶ所</small>	三〇・〇九 <small>円</small>	八八・二三 <small>円</small>	五六
大正十五年	—	—	—	二六・九	二六・九	一四
昭和元年	—	—	三	七五・四二	七五・四二	五
昭和二年	—	—	四	三五七・五	三五七・五	二四
昭和三年	—	—	一	一七・六	一七・六	一
昭和五年	—	—	—	—	—	—
計	七〇	四九六・二四	一〇	一、〇〇九・七四	一、五〇五・八	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
大正十五年	一、〇五五・二 <small>円</small>	七〇
大正十四年	四一・八	三
昭和元年	三三・五	二
昭和二年	三五七・五	二四
昭和三年	一七・六	一
昭和五年	—	—
計	一、五〇五・八	一〇〇

第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第二電氣

(イ) 市電

工事は大正十五年一月越前堀一丁目四番地先に於ける電柱移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、昭和四年九月同じく越前堀一丁目四番地先に於ける電纜移設工事を最終とし三件の工事を完了したり、而して之に要したる整理費は千二百三十六圓九十二錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線		計	歩 合 %
	數量	金 額	數量	金 額		
大正十四年	二本	三圓・一四	一 冊	一 圓	三圓・一四	三
昭和二年	八	七・三三	一	一	七・三三	六
昭和四年	一	一	一	一	一	九
計	一〇	一〇六・四三	三三・〇	一・一四〇・四三	一・二二六・九三	一〇〇

支拂狀況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	歩 合 %
昭和二年	七・三五	一	七・三五	六



支拂状況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	歩 合 %
昭 和 二 年	七・五 <sup>円</sup>	一 <sup>円</sup>	七・五 <sup>円</sup>	六
昭 和 三 年	一	三・四	三・四	三
昭 和 四 年	一	一・三〇・四	一・三〇・四	九
計	七・五	一・二四・五	一・三二・〇	一〇〇

(口) 東 電

工事は大正十五年一月銀町一丁目七番地先より同一丁目十九番地先に於ける共通支線移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、昭和四年十二月川口町三十二番地先に於ける電柱移設工事を最終とし、八件の工事を全部完了したり、而して之に要したる整理費は九百五十六圓七十九錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。



第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

工事進捗状況

年 度	電 柱		其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
大正十四年	三本	三〇・六	一ヶ所	三九・四	四九・八〇	四
大正十五年	一	一〇・六	二	四二・六	四二・六	六
昭和二年	二	一七・六	一	一七・六	三五・二	八
昭和三年	二	一七・六	一	一七・六	三五・二	八
昭和四年	四	二五・二	一	一七・六	四二・八	一〇
計	一二	一〇一・〇	五	一〇九・八	二一〇・八	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭和二年	四七〇・六	四
昭和四年	四八五・八	五
計	九五六・四	一〇〇

第三 瓦斯

工事は昭和二年十月、四日市町十九番地先に於ける瓦斯管切廻工事の一件に過ぎず、之が整理費は五

十三圓九十一錢にして、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	瓦 斯 管 切 廻	計	歩 合 %



第三 瓦斯

工事は昭和二年十月、四日市町十九番地先に於ける瓦斯管切廻工事の一件に過ぎず、之が整理費は五

十三圓九十一錢にして、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。  
工事進捗狀況

年 度	瓦斯管切廻		計	歩 合 %
	數 量	金 額		
昭和二年	一ヶ所	五・九一	五・九一	一〇〇
計	一	五・九一	五・九一	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭和二年	五・九一	一〇〇
計	五・九一	一〇〇

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は、件數三十件整理費一萬三千三百三十四圓八十四錢全部市負擔にして、昭和二年一月十四日東京瓦斯株式會社關係工作物整理に著手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局五件金額三千九百九十五圓九錢、市電氣局三件金額六百九十一圓九十四錢、東京電燈株式會社十八件金額六千五百七十二圓九十六錢、東京瓦斯株式會社四件金額二千七十圓八十五錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理







工事進捗状況

年度	電柱		管線		其他		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
大正十五年	1本	—	16.0間	394.74円	—	—	394.74円	3
昭和元年	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和二年	5	1,683.30	13.1	810.04	—	—	2,493.34	19
昭和三年	3	233.71	—	—	—	—	233.71	2
昭和四年	9	4,600.57	195.1	4,941.10	2	608.17	10,150.84	76
計	18	6,517.58	213.2	6,199.88	2	608.17	13,330.62	100

支拂状況

年度	市	負	擔	歩	合	%
昭和二年	—	—	1,077.54	—	—	8
昭和三年	—	—	1,491.80	—	—	2
昭和四年	—	—	5,523.65	—	—	4
計	—	—	8,092.99	—	—	100

第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第一 水道

第十九地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

三二六

工事は昭和二年十月大川端町二番地先に於ける水道鐵管撤去工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、同五年三月新船松町九番地先より本湊町一丁目五番地先に至る水道鐵管移設工事を最終とし、五件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は三千九百九十五圓九錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	管 線 路		計 額	計	歩 合 %
	數 量	金 額			
昭 和 二 年	二八・六 <sup>間</sup>	七四七・一〇	七四七・一〇	七四七・一〇	一九
昭 和 四 年	八九・五	三、二四七・九	三、二四七・九	三、二四七・九	八
計	一・〇一〇・一	三、九九四・〇	三、九九四・〇	三、九九四・〇	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 五 年	三、二四七・九	八
計	三、九九四・〇	一〇〇



計	五	年	三、二四七・九九	三、九九五・〇九	一〇〇
---	---	---	----------	----------	-----

第二電氣

(イ) 市電

工事は昭和二年十一月越前堀一丁目三番地先竝四番地先に於ける電柱移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、同四年十月銀町一丁目地内に於ける變壓塔移設工事を最終とし三件の工事を完了せり、而して之に要したる整理費は六百九十一圓九十四錢なり、其の工事竝支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	二	八三・五 <sup>円</sup>	一 <sup>ヶ所</sup>	一 <sup>円</sup>	八三・五 <sup>円</sup>	三
昭 和 四 年	一	八三・五	二	六〇八・元	六〇八・元	八
計	三	一六七・〇	三	六〇八・元	六〇八・元	一〇〇

第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第十九地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

支拂狀況

年 度	市 負	擔	歩	合	%
昭 和 三 和 四 和 五 計		八三・五五 二七・二六 三五・七五 六一・四			三 元 〇 〇

(ロ) 東 電

工事は昭和二年七月南新堀町一丁目三番地先に於ける電柱移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、同四年十二月川口町三十二番地先に於ける電柱移設工事を最終とし十八件の工事を全部完了したり。而して之に要したる整理費は六千五百七十二圓九十六錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

二

(イ) 市

電

路

管

線

柱

管

線

路

管

線

柱

管

線

路

管

線

柱

管

線

路

管

線

柱

管

線

路

管

線

柱

管

線

路

管

線

柱

管

線

路

管

線

柱

管

線

工事進捗状況

電

柱

管

線

路

十

歩

合

%



工事進捗状況

年 度	電 柱		管 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	四 <sup>本</sup>	一、五八四・七五 <sup>円</sup>	一 <sup>間</sup>	一三三・九四 <sup>円</sup>	一、七七八・六九 <sup>円</sup>	二六
昭 和 三 年	三	二二二・七一	—	—	二二二・七一	四
昭 和 四 年	九	四、六〇〇・五 <sup>六</sup>	—	—	四、六〇〇・五 <sup>六</sup>	七〇
計	一四 <sup>本</sup>	六、四三九・二〇	一 <sup>間</sup>	一三三・九四	六、五七三・一四	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 二 年	—	一、〇五七・四 <sup>円</sup>	一六
昭 和 三 年	—	六六一・二五	一〇
昭 和 四 年	—	四、八四二・二七	七四
計	—	六、五七三・九 <sup>六</sup>	一〇〇

第十九地區 丙 地下埋設物其他工作物整理